

平安京右京六条二坊六・十一町跡

平安京右京六条二坊六・十一町跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京六条二坊六・十一町跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび道路拡幅事業に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

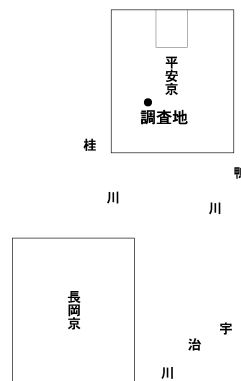
平成 19 年 8 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京六条二坊六・十一町・西堀川小路跡
- 2 調査所在地 京都市下京区西七条御前田町～右京区西院南高田町地内
- 3 委 託 者 国土交通省近畿地方整備局 京都国道事務所長 見坂繁範
- 4 調査期間 2007年3月27日～2007年8月3日
- 5 調査面積 1,643 m²
- 6 調査担当者 小檜山一良・布川豊治・能芝 勉・尾藤德行・卜田健司
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図(縮尺1:2,500)「山ノ内」「壬生」「西京極」「島原」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系(改正前)平面直角座標系 (ただし、単位(m)を省略した)
- 9 使用標高 T.P.:東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点(一級基準点)を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 調査区ごとに番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 遺物復元 村上 勉・出水みゆき
- 16 自然遺物分析 竜子正彦
- 17 基準点測量 宮原健吾
- 18 本書作成 小檜山一良・布川豊治・能芝 勉・尾藤德行
遺物実測は近藤奈央が協力した。
- 19 編集・調整 中村 敦・児玉光世・近藤章子



(調査地点図)

0 2 4km

目 次

1 . 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2 . 調査地の位置と環境	3
(1) 位置と歴史的環境	3
(2) 既往の調査	4
3 . 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 遺構の概要	9
(3) 1 区の遺構	16
(4) 2 区の遺構	20
4 . 遺 物	31
(1) 遺物の概要	31
(2) 土器類	31
(3) 瓦類	38
(4) 銭貨	38
(5) その他の出土遺物	39
5 . ま と め	43
(1) 六町周辺の変遷	43
(2) 西堀川小路に関して	44

図 版 目 次

図版 1	遺構	調査地遠景（西から）
図版 2	遺構	1 1 区第 1 面全景（北東から）
		2 1 区第 2 面全景（北東から）
図版 3	遺構	1 1 区六町宅地内（北から）
		2 1 区西堀川小路東側溝ほか（北から）
図版 4	遺構	1 1 区西堀川・泥土除去（北東から）
		2 1 区西堀川（北東から）

- 図版 5 遺構 1 2区全景西半(東から)
- 2 2区全景東半(北西から)
- 図版 6 遺構 1 2区柱列1・2、柵列1(東から)
- 2 2区井戸4(東から)
- 図版 7 遺構 1 2区井戸7(東から)
- 2 2区掘立柱建物1(北から)
- 図版 8 遺構 1 2区掘立柱建物2(西から)
- 2 2区掘立柱建物3・4、柱列3(西から)
- 図版 9 遺物 土器類
- 図版 10 遺物 土器類
- 図版 11 遺物 土器類・軒瓦・石鏃・銭貨

挿 図 目 次

図 1	調査位置図(1:2,500)	1
図 2	調査区配置図(1:1,000)	2
図 3	1区調査前全景(東から)	3
図 4	2区調査前全景(西から)	3
図 5	1区作業風景	3
図 6	2区作業風景	3
図 7	周辺既往調査位置図(1:5,000)	5
図 8	1区北壁断面図(1:80)	10
図 9	1区南壁断面図(1:80)	11
図 10	1区東壁・川170断面図(1:80)	12
図 11	2区北壁・東壁断面図(1:80)	13
図 12	1区第1面遺構平面図(1:200)	14
図 13	1区第2面遺構平面図(1:200)	15
図 14	1区溝3・4・97~99断面図(1:50)	16
図 15	1区柱列250実測図(1:100)	17
図 16	1区川170東肩杭列実測図(1:50)	18
図 17	川170東肩杭列A-B間断割(西から)	18
図 18	川170東肩杭列北端(北から)	18
図 19	1区掘立柱建物255実測図(1:100)	19
図 20	2区第1面遺構平面図(1:200)	21

図 21	2区第2面遺構平面図(1:200)	22
図 22	2区掘立柱建物1実測図(1:100)	23
図 23	2区掘立柱建物2実測図(1:100)	24
図 24	2区掘立柱建物3・4、柱列3実測図(1:100)	25
図 25	2区柱列1・柵列1実測図(1:100)	26
図 26	2区柱列2礎板実測図(1:50)	27
図 27	2区溝3断面図(1:50)	28
図 28	2区溝6断面図(1:50)	28
図 29	2区井戸4・7実測図(1:50)	30
図 30	1区落込み257出土土器実測図(1:4)	32
図 31	1区土坑232・柱穴254・川170出土土器実測図(1:4)	33
図 32	1区整地層出土土器実測図(1:4)	34
図 33	2区井戸4出土土器実測図(1:4)	35
図 34	2区井戸7出土土器実測図(1:4)	35
図 35	2区溝6出土土器実測図(1:4)	36
図 36	2区溝3出土土器実測図(1:4)	37
図 37	2区土坑5出土土器実測図(1:4)	37
図 38	出土軒瓦拓影・実測図(1:4)	38
図 39	1区出土銭貨拓影(1:1)	38
図 40	2区出土銭貨	39
図 41	1区出土木製品実測図(1:4、1:8)	39
図 42	2区出土石鏃実測図(1:1)	40
図 43	川170検出自然遺物	41
図 44	四行八門内における調査区(1:1,000)	43
図 45	西堀川小路検出地点	45

表 目 次

表 1	周辺既往調査一覧表	6
表 2	遺構概要表	9
表 3	遺物概要表	31
表 4	銭貨測定表	39
表 5	川170検出自然遺物一覧表	42
表 6	西堀川小路検出一覧表	46

平安京右京六条二坊六・十一跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

この調査は、国土交通省が実施する平成18年度五条大宮拡幅事業に伴うものである。調査地は、京都市下京区西七条御前田町から右京区西院南高田町地内に位置し、平安京右京六条二坊六町・十一町・西堀川小路にあたる。

今回は、御前通から西大路通までの約300m間の道路南側の約20m幅の区域のうち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課による試掘調査の結果、発掘調査の指導がなされた対象区域を、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて、発掘調査を実施することとなった。

これまで周辺調査では、五条通七本松の大阪ガス跡地での貴族邸宅跡など、平安時代前期を中心とした遺構・遺物の発見が多くあることが知られている。これらを参考に、今調査では西堀川小路の構造と変遷、宅地利用の実態と変遷などを知ることを主な目的とした。



図1 調査位置図(1:2,500)

(2) 調査の経過

調査は、先に西堀川小路にあたる地点に東西約 40 m・南北約 25 m、面積約 840 m²の調査区 (1 区) を設定した。続いて西土居通の東側に東西約 20 m・南北約 25 m の調査区 (2 区) を設定した。これは後に、東側に東西約 16 m・南北約 26 m を拡張した結果、面積は約 803 m²となった。全体では約 1,643 m²となった。

調査は初めに、重機を使用して遺構面まで掘下げを行い、排土は 4 t ダンプで順次場外の土置き場に搬出した。その後、人力での遺構調査を実施した。

1 区の西半部では、近世から室町時代までの遺構面を 1 面で検出した。平安時代の遺構面は東部の 1 面、西部の 2 面で検出した。2 区では、地山面で近世から平安時代の遺構を検出した。検出した主な遺構には、江戸時代以降の溝・耕作土層など、室町時代の耕作土層・整地層、平安時代前期の柱穴・土塙・溝・川などがある。

これらの遺構の写真撮影・実測などの記録作業を調査の進行にあわせて行い、最終の下層遺構の有無と堆積状況の確認をするため、1 区では調査区北・東・南壁、2 区では北・東壁に断割りを入れ、土層断面図を作成した。その後埋戻しを行い、全ての作業を終了した。

また、平安時代前期の西堀川小路に関連する遺構が良好な状態で検出できたことから、調査中に広報発表を行い、市民を対象とした現地説明会を開催し、300 名以上の参加があった。また、京都市立小栗栖中学校の生徒 2 名の中学生チャレンジ体験を受け入れた。

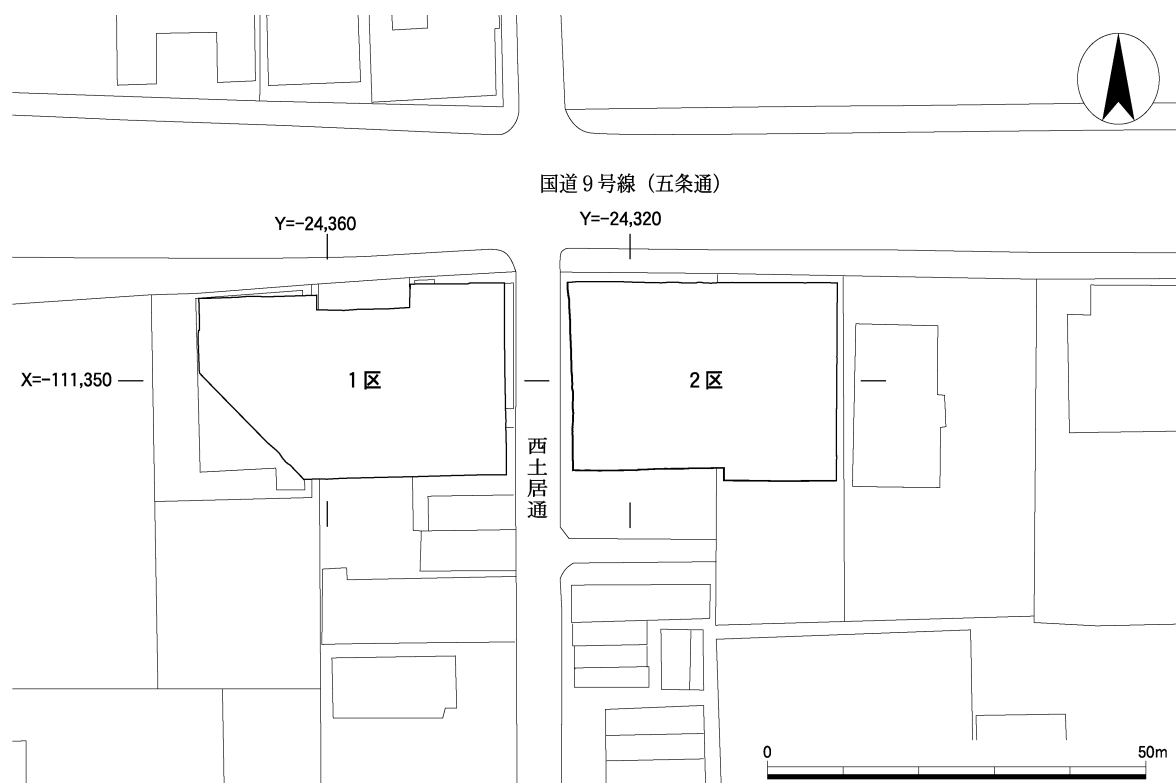


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

2. 調査地の位置と環境

(1) 位置と歴史的環境

調査地は、平安京右京六条二坊六町の北西部と西堀川小路、そして同坊十一町の北部東端部が想定される。また、敷地の北側 20 m に六条坊門小路が推定される。四行八門制では六町の東三行北二・三門、東四行北二・三門と、十一町の東一行北二・三門にあたる。

『拾芥抄』西京図によると、六町は「号山荘」とされているが、実態はよくわかっていない。周辺には、京都市遺跡地図台帳によれば、北西方向 100 m におもに弥生時代の土坑群を検出した西院遺跡、南方 130 m には方形周溝墓 2 基などを検出した衣田町遺跡がある。また、南には平安京の官営市場である西市跡が位置する。

右京域は、湿潤な土地環境のためか、平安時代中期以降に町が衰退するに従って、当地周辺もさびれていったとみられる。

中世になると、この辺り一帯は西七条村と呼ばれ、江戸時代には村内を丹波街道が貫き同街道沿いに集落が形成された。当地は耕作地としての利用がなされていた。



図3 1区調査前全景（東から）



図4 2区調査前全景（西から）



図5 1区作業風景



図6 2区作業風景

(2) 既往の調査

調査地周辺では、これまでに発掘調査・試掘調査・立会調査が実施されている。それらの調査成果を表1にまとめ、図7に調査地点を示した。ここでは本調査地周辺の概要を述べる。

当六町内での発掘調査例はないが、試掘調査(図7-19)では平安時代前期の井戸を検出している。また、試掘調査(11b)で柱穴や溝も検出しており、宅地内の建物の配置を推測できる資料である。さらに、立会調査(18・43)では、平安時代の遺物の出土が報告されている。

当調査区の北東側にあたる二町では、京都市立病院敷地内で調査が数回実施され、発掘調査(10)で弥生時代の溝、平安時代前期の掘立柱建物4棟・井戸・溝・土壌、後期の土壌など、さらに中世の建物・溝などを検出している。平安時代前期の西鞠負小路東築地に近い位置や町の中央付近で建物を検出していることから、1町規模の占地も考えられている。東隣の三町では、発掘調査(12)で平安時代前期の2時期の園池や溝・柱穴などを検出した。池の位置が町のほぼ中心部であることから、1町規模の占地を考えている。また、後に作られた南北溝は町の中心にあたることから、1/2町の宅地割りに変更された可能性を考えている。南東側の四町では、立会調査(14)で平安時代前期から後期の流れ堆積などを検出している。また、試掘調査(15)で平安時代後期の六条大路の北側溝を検出している。南隣の五町では、試掘調査(16)で平安時代前期の遺物包含層が確認している。北隣の七町では、立会調査(21)や試掘調査(22)で西堀川小路の流路堆積や平安時代中期の遺物などを検出している。北西側の十町では、発掘調査(27)により、平安時代前期から中期の掘立柱建物6棟以上・柵列2条など、鎌倉時代から室町時代の小溝群を検出している。十町の中央寄りに平安時代前期から中期まで、複数の建物が配置されていたことが判明している。西隣に位置する十一町では、立会調査(29)で溝状遺構を検出している。南西側の十二町では、立会調査(30)で野寺小路の両側溝・路面整地土を検出している。北西方向の十五町では、発掘調査(31)で平安時代の道祖大路東築地基礎・道祖大路東側溝・河川跡(道祖川)また中世の耕作溝群も検出した。平安時代中期以降に築地や道路面が削平されていることがわかった。

参考文献

小澤嘉三『西院の歴史』西院の歴史編集委員会 1983年

杉山信三「平安京右京の湿地について」『古代文化』40-9 古代学協会 1988年

『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻 平凡社 1979年

財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年

『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年



図7 周辺既往調査位置図 (1 : 5,000)

表1 周辺既往調査一覧表

番号	遺跡名	調査方法	所在地	調査期間	遺構	文献
1	右京五条一坊十三町	発掘	中京区壬生下溝町45	1987.07.01～07.14	平安時代～鎌倉時代の土坑6基。江戸時代の溝、土坑5基。	1
2	右京五条二坊五町	発掘	中京区壬生西松町8-9	1980.10.15～10.31	平安時代の西堀川・東側溝・路面・築地跡・内溝、木棺墓、土坑、土坑墓。近世の旧耕土。	2
3	右京六条一坊十一・十四町	発掘	下京区中堂寺栗田町地内	1995.04.10～12.01	縄文時代～古墳時代以前の河跡。古墳時代の河跡。平安時代の建物、柵、井戸、土坑、河跡。鎌倉時代の西櫛司小路西側溝?。近世以降の暗渠、競馬場壕。	3
4	右京六条一坊十二・十三町、七条一坊十六町	発掘	下京区中堂寺栗田町1	1989.03.28～06.07	弥生時代～古墳時代の湿地(河川跡を含む)。平安時代の柱跡2基。平安時代後期の六条大路北側溝1条。江戸時代の土取穴、暗渠。	4
5	右京六条一坊十二・十三町	発掘	下京区中堂寺栗田町1	1989.07.20～1990.05.30	平安時代の柱穴、井戸。平安時代～近代の溝、土坑。12町-7群の建物跡、13町-3群の建物跡、井戸、西櫛司小路東側溝、門跡2ヶ所。	5
6	右京六条一坊十三町	発掘	下京区中堂寺栗田町1	1991.11.18～1992.03.07	縄文時代～弥生時代の旧流路跡。平安時代の掘立柱建物8棟、柵、溝、井戸、湿地状遺構。近世以降の暗渠、土坑。	6
7	右京六条一坊十三・十四町	発掘	下京区中堂寺栗田町1	1992.07.13～1993.01.14	縄文時代～弥生時代の河跡。古墳時代の河跡。平安時代の掘立柱建物、楊梅小路路面・側溝、土坑、門跡?。	7
8	右京六条一坊十三町	発掘	下京区中堂寺栗田町地内	1996.09.02～12.28	平安時代の建物、溝、池。近世以降の暗渠、土取穴、競馬場壕。	8
9	右京六条一坊十四町	発掘	下京区中堂寺栗田町地内	1994.08.29～1995.02.24	古墳時代～平安時代後期の河川旧流路。平安時代前期の掘立柱建物、井戸、溝、柵。近世以降の土坑、溝。	9
10	右京六条二坊二町	発掘	中京区壬生東高田町1-2(京都市立病院)	1988.10.07～1989.01.10	(1区)弥生時代の溝。平安時代前期の掘立柱建物3棟、南北溝2条。中世の建物1棟以上、東西溝1条。(2区)平安時代前期の掘立柱建物1棟、井戸1基、土坑1基。	10
11a	右京六条一坊十四町	試掘	下京区中堂寺栗田町	2006.09.20	地表下1.45mで地山の黄褐色砂礫。この砂礫層直上まで現代盛土層。	11
11b	右京六条二坊三町	試掘	下京区西七条赤社町25	2006.09.20	地表下1.6mまで既存建物の基礎。	11
11c	右京六条二坊六町	試掘	下京区西七条東御前田町16	2006.09.21	平安時代の東西溝、土器埋納遺構(柱穴か)、中世の南北溝。	11
11d	右京六条二坊十一町	試掘	右京区西院南高田町	2006.09.21	地表下1.6mまで既存建物の影響により削平。	11
12	右京六条二坊三町	発掘	下京区西七条東御前田町	2006.11.28～07.03.19	平安時代の池、溝、土坑、柱穴。室町時代～江戸時代の耕作溝。近代：耕作溝。	12
13	右京六条二坊三町	立会	下京区西七条東御前田町24、赤社町20-1	2006.06.30	地表下1.8mで平安時代中期の包含層、土師器皿。1.35mで黄褐色砂礫の流れ堆積。1.6mで暗灰黄色砂礫の地山。	13
14	右京六条二坊四町	立会	下京区西七条赤社町16	1987.06.11	地表下0.75mで平安時代前期～後期の流れ堆積。	14
15	右京六条二坊四町	試掘	下京区西七条東御前田町50	1989.05.19	地表下0.8で平安時代後期の六条大路北側溝。	15
16	右京六条二坊五町	試掘	下京区西七条東御前田町13・14～御前田町31	1988.02.15	(1区)地表下0.8mで浅いシルト層が全域に堆積。平安時代前期の土師器、瓦。	16
17	右京六条二坊五町	立会	下京区西七条東御前田町6-4	1990.07.19	No.1地点第3・4層は平安時代の可能性あり。	17
18	右京六条二坊六町	立会	下京区西七条御前田町14-1・2	1981.03.26	地表下0.6mで落込み。平安時代の布目平瓦片、土師微片。	18
19	右京六条二坊六町	試掘	下京区西七条御前田町24-2	1989.02.13	地表下1.5mで平安時代前期の井戸。曲物内には黒色土器。湿地状堆積。	19
20	右京六条二坊六町	試掘	下京区西七条御前田町22	1985.10.04	地表下0.9mで遺物包含層(第1・2層)。	20
21	右京六条二坊七町	立会	中京区壬生東高田町4-1	1989.09.18	平安時代中期の土師器(第4・5層)、湿地状堆積。	21

番号	遺跡名	調査方法	所在地	調査期間	遺構	文献
22	右京六条二坊七町	試掘	中京区壬生東高田町2	1990.05.21	西堀川の流路堆積。砂礫上面に平安時代の遺物。近世の土師器。	22
23	右京六条二坊七町	発掘	中京区壬生東高田町1-2 (京都市立病院)	1979.02.01～03.15	平安時代の溝3条(西鞠負小路側溝)、土坑1基。近世の土坑4基。	23
24	右京六条二坊八町	発掘	中京区壬生東高田町1-2 (朱七保育所)	1978.11.28～12.02	中世の遺物包含層。	24
25	右京六条二坊八町	発掘	中京区壬生東高田町(公害センター)	1976.11.20～12.27	古墳時代の溝。平安時代中期?の包含層。室町時代の溝2条(西鞠負小路側溝?)、柱穴。近世の包含層。	25
26	右京六条二坊九町・十六町	立会	右京区松原通、佐井通～西大路通地内	1998.10.19～11.12	地表下0.67～1.38m佐井川の堆積層。平安時代前期の鉢片。	26
27	右京六条二坊十町	発掘	右京区西院高田町34	1987.05.22～07.02	古墳時代の流路。平安時代前期～中期の掘立柱建物6棟以上、柵列2条、土坑、溝状遺構。鎌倉時代～室町時代の南北・東西小溝群。	27
28	右京六条二坊十町	立会	右京区西院南高田町34	1987.06.19	地表下0.3mで土坑2基。	28
29	右京六条二坊十一町	立会	右京区西院南高田町3	1982.03.02	溝状遺構。淡黄灰色砂泥層より須恵器片。	29
30	右京六条二坊十二町	立会	右京区西院中水町21-1、22-1	1997.04.10～04.21	野寺小路の両側溝、路面整地土、2時期。平安時代後期の土師器、須恵器、布目瓦の細片。	30
31	右京六条二坊十五町	発掘	右京区西院寿町	1988.05.23～06.14	平安時代の道祖大路東築地・東側溝・道祖川。中世の溝、河川。	31
32	右京七条一坊十四町	発掘	下京区西七条御領町32 (七条中学校)	1980.08.26～10.20	弥生時代の方形周溝墓、溝。平安時代の建物、井戸3基、溝。	32
33	右京七条一坊十四町	発掘	下京区西七条御領町32 (七条中学校)	1997.09.24～1998.03.09	平安時代の掘立柱建物、井戸、柵列、溝、土壙。	33
34	右京七条一坊一町	試掘	下京区西七条東御前田町49	1981.07.21	地表下0.6mで平安時代中期の包含層	34
35	右京七条二坊二・七・十町	立会	下京区西七条掛越町～東石ヶ坪町	1998.09.02～11.19	地表下0.4mで平安時代の包含層。土師器、須恵器。0.9mで流れ堆積。	35
36	右京七条二坊七町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪町40	1983.04.20～05.14	平安時代中期～後期の溝3条(西堀川小路東側溝・東側築地内溝)、柱穴、土坑。鎌倉時代～室町時代の溝、包含層、土坑。近代～現代の溝、柱穴、杭列、土坑。	36
37	右京七条二坊八町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪町5 (七条第三小学校)	1981.09.04～09.21	平安時代中期の東西溝1条。土師器、須恵器、黒色土器、緑釉、瓦。砂礫の流れ堆積、古墳時代の土師器、須恵器。	37
38	右京七条二坊十町	発掘	下京区西七条比輪田町5-1、5-2、5-3	1990.07.06～09.20	飛鳥時代～奈良時代の自然流路。平安時代前期の掘立柱建物1棟、柵列2条、土坑、土坑状遺構、井戸跡。平安時代後期～鎌倉時代前期の東西・南北方向小溝群。鎌倉時代～室町時代の東西小溝群。桃山時代～江戸時代の東西小溝群。	38
39	右京七条二坊十四町	立会	下京区西七条名倉町～比輪田町地先	1997.03.11～03.27	地表下0.3mで平安時代中期の包含層。土師器、須恵器、黒色土器。0.9mで湿地状堆積。	39
40	右京七条二坊十五町	発掘	下京区西七条名倉町14・15、比輪田町16	1988.05.10～07.27	古墳時代の河川1条。平安時代の掘立柱建物6棟、柵列1条、井戸1基、溝2条、土坑、ピット、河川1条。中世以降の溝多数。	40
41	右京五条・六条二坊	立会	右京区西院高田町地先～中京区壬生東高田町地先	1981.06.18～1982.03.31	平安時代以前の溝状遺構。平安時代の側溝(西鞠負小路西・西堀川小路東)、土坑状遺構。平安時代前期～後期の西堀川小路、西堀川。	41
42	右京五条・六条二坊	立会	右京区西院矢掛町30地内～高田町地内	1982.04.13～07.13	(A区) 弥生時代中期の包含層(竪穴住居跡?)。(C2区) 平安時代以降の道祖川流路。	42
43	右京六条二坊	立会	下京区西七条東御前田町	1984.12.08～12.25	平安時代の遺物包含層。	43
44	右京六条・七条二坊	立会	右京区西院高田町24地先～下京区西七条北輪田町9地先	1983.06.07～07.18	平安時代の井戸。平安時代～鎌倉時代の溝。近代の溝。	44
45	右京六条二坊六町	発掘	右京区西院南高田町、下京区西七条東御前田町	2006.11.28～2007.03.19	平安時代の池、溝、土坑、柱穴。室町時代～江戸時代の耕作溝。近代の耕作溝。	本報告

文献（表1 周辺既往調査一覧表）

- 1 本弥八郎「平安京右京五条一坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 2 堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
- 3 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 4 長宗繁一「平安京右京六・七条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 5 長宗繁一「平安京右京六条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 6 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 7 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 8 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1998年
- 9 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 10 網 伸也「平安京右京六条二坊1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 11 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 12 小檜山一良『平安京右京六条二坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-25（財）京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 13 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 14 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
- 15 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化市民局 1990年
- 16 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
- 17 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年
- 18 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
- 19 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 20 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
- 21 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 22 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年
- 23 『史料京都の歴史 第2巻考古』平凡社 1983年
- 24 『史料京都の歴史 第2巻考古』平凡社 1983年
- 25 『史料京都の歴史 第2巻考古』平凡社 1983年
- 26 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年
- 27 堀内明博「平安京右京六条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 28 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
- 29 「調査概要一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- 30 尾藤徳行・吉本健吾「右京六条二坊十二・十三町」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年
- 31 吉崎 伸「平安京右京六条二坊2」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 32 財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年
- 33 桜井みどり「平安京右京七条一坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 34 「調査概要一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- 35 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年
- 36 平田泰・丸川義広「右京七条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
- 37 前田義明「右京七条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 38 堀内明博「平安京右京七条二坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 39 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年
- 40 菅田 薫「平安京右京七条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 41 百瀬正恒「右京五条二坊・六条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（試掘・立会調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 42 百瀬正恒「右京五条二坊・六条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1984年

年

43 「昭和 59 年度試掘・立会調査一覧表」『昭和 59 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
1987 年

44 「昭和 58 年度試掘・立会調査一覧表」『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
1985 年

表 2 遺構概要表

時 代	遺 構		備 考
江戸時代	1 区	溝、土坑など	溝には杭を伴う数条の水路がある。
	2 区	溝 1・2・41・42 など	耕作に伴う用排水路
室町時代	1 区	礫敷遺構 166、畔 161、溝、土壇など	
平安時代前期	1 区	掘立柱建物 255、西堀川小路東築地・東側溝（溝 223）・内溝（溝 222）、西堀川（川 170）など	掘立柱建物 255（2 間×4 間以上、南北棟）東築地は柱列 250 を伴う
	2 区	掘立柱建物 1～4、柱列 1～3、柵列 1、溝 3・6・44、井戸 4・7、土壇 5 など	掘立柱建物 1（2 間×3 間、東西棟） 掘立柱建物 2（2 間×4 間、東西棟） 掘立柱建物 3（2 間×2 間以上、南北棟） 掘立柱建物 4（1 間×2 間以上、南北棟）
弥生時代 ～古墳時代	1 区	落込み 257	古墳時代前期
	2 区	溝 101・土壇 102	

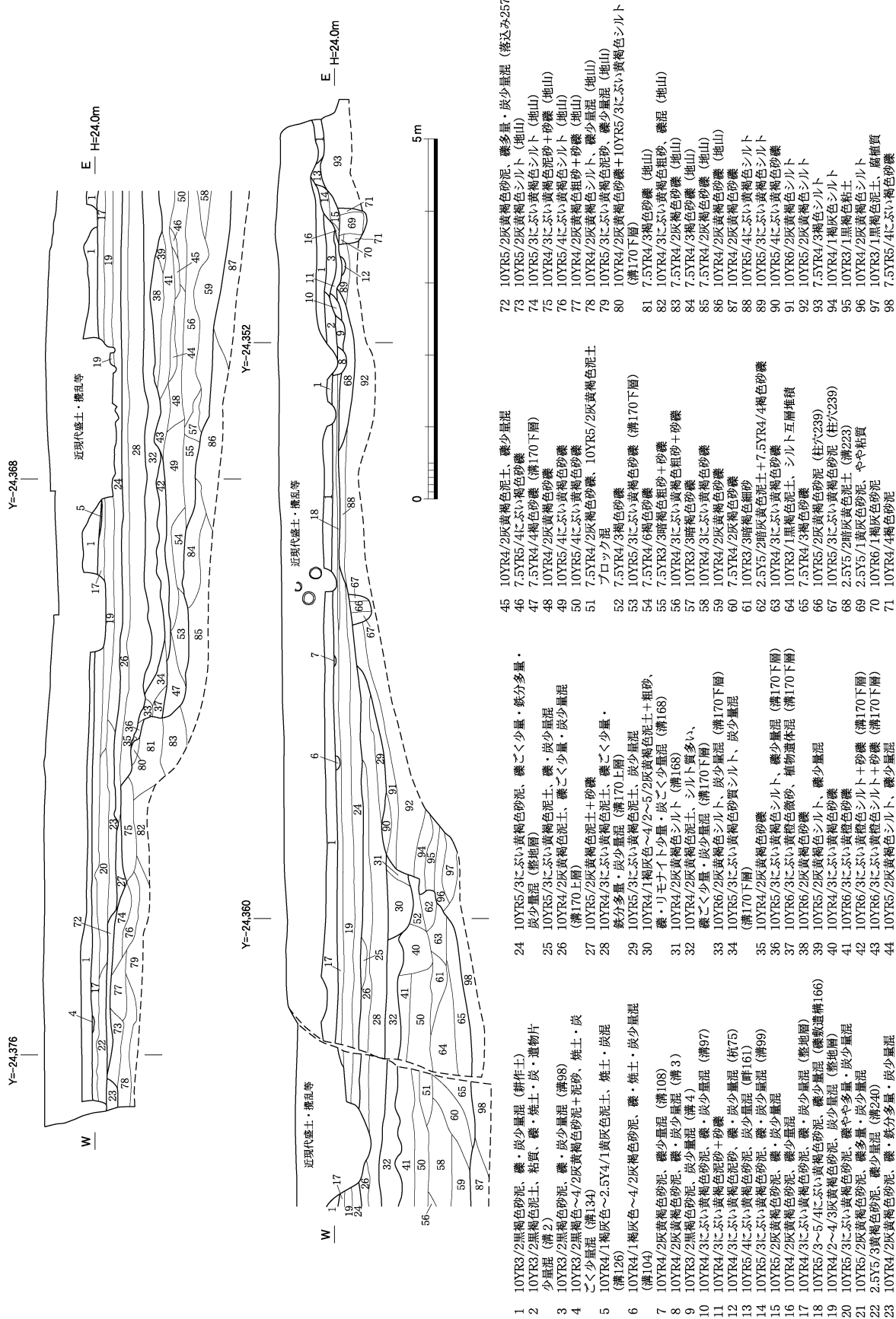
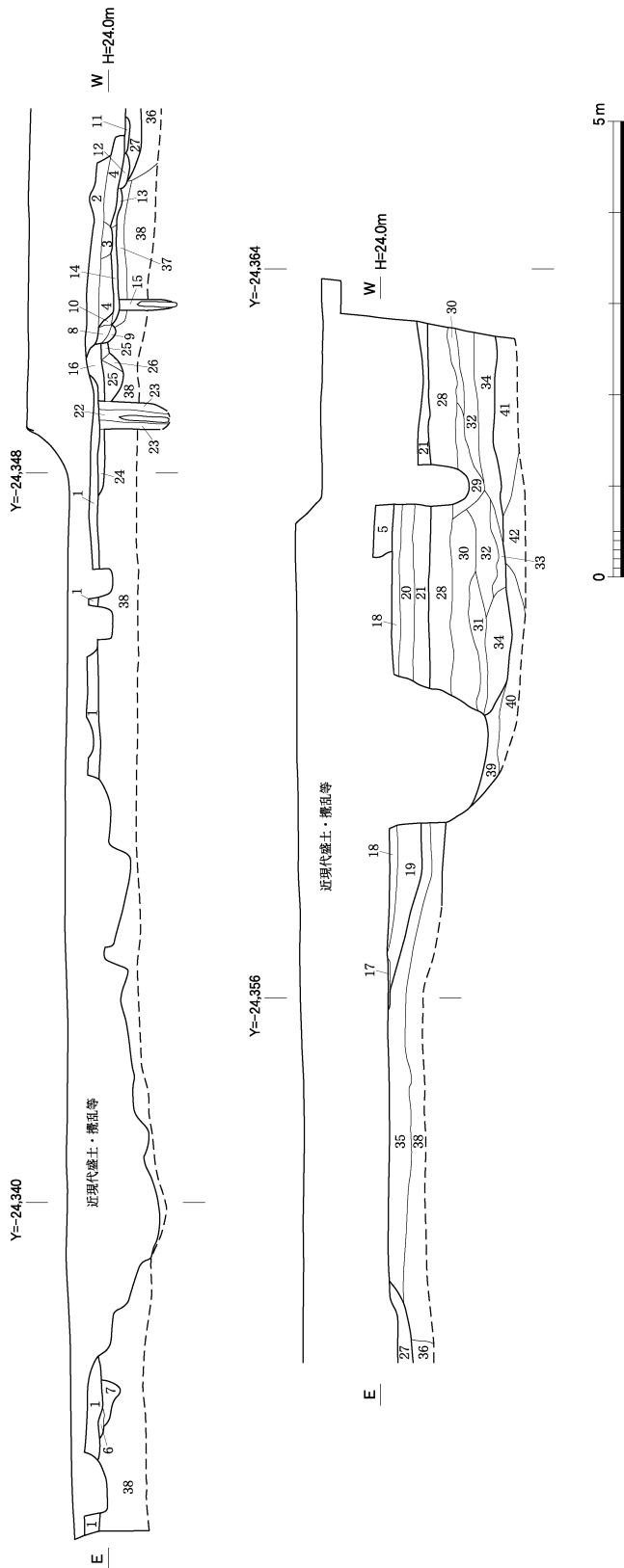


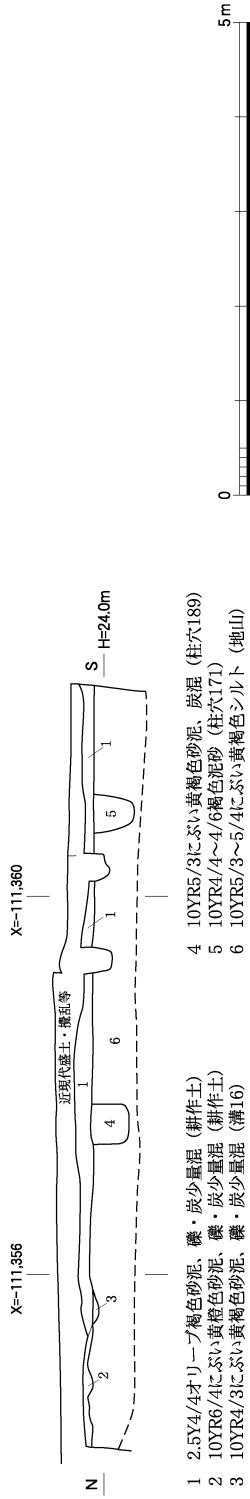
図 8 1 区北壁断面図 (1 : 80)



- | | | | |
|----|------------------------------------------|----|--------------------------------------------|
| 1 | 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥、礫・炭少量混 (耕作土) | 31 | 2.5Y3/2黒褐色泥砂+砂礫 (川170下層) |
| 2 | 10YR3/2黒褐色砂泥、礫・炭少量混 (耕作土) | 32 | 10YR4/1褐色色泥土+2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥、炭微量混 (川170下層) |
| 3 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫少量混 (耕作土) | 33 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 (川170最下層) |
| 4 | 10YR3/3暗褐色砂泥、礫・炭少量混 (耕作土) | 34 | 7.5YR4/3褐色砂礫 (川170最下層) |
| 5 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥、炭少量混 (耕作土) | 35 | 10YR6/3にぶい黄褐色シルト (地山) |
| 6 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥、炭少量混 (溝37) | 36 | 10YR5/2灰黄褐色シルト (地山) |
| 7 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫少量混 | 37 | 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト (地山) |
| 8 | 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (溝99) | 38 | 10YR5/3~5/4にぶい黄褐色シルト (地山) |
| 9 | 10YR5/2灰黄褐色泥土、炭少量混 (溝99) | 39 | 7.5YR5/6明褐色砂礫 (地山) |
| 10 | 10YR3/2黒褐色砂泥、礫・炭少量混 (溝98) | 40 | 10YR5/1褐色砂礫 (地山) |
| 11 | 10YR4/3にぶい黄褐色泥土、炭少量混 (溝3) | 41 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 (地山) |
| 12 | 10YR4/2灰黄褐色泥土、礫・炭少量混 (溝4) | 42 | 10YR6/1褐色砂礫 (地山) |
| 13 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫少量混、(溝97) | | |
| 14 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、炭少量混 (溝98) | | |
| 15 | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 | | |
| 16 | 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (畔161) | | |
| 17 | 10YR5/3~5/4にぶい黄褐色砂泥、礫少量混 (磯敷遺構166) | | |
| 18 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (整地層) | | |
| 19 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (整地層) | | |
| 20 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥、炭少量混 (整地層) | | |
| 21 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥、炭少量混 (整地層) | | |
| 22 | 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、炭少量混 (柱六243) | | |
| 23 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥、炭少量混 (柱六243) | | |
| 24 | 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (溝222) | | |
| 25 | 10YR4/4褐色砂泥 | | |
| 26 | 10YR5/2灰黄褐色泥土 | | |
| 27 | 10YR5/3にぶい黄褐色泥土 (溝223) | | |
| 28 | 10YR4/2灰黄褐色泥土、炭微量混 (川170上層) | | |
| 29 | 10YR4/1褐色色泥土、炭微量混 (川170下層) | | |
| 30 | 10YR4/2灰黄褐色泥土+10YR4/1褐色色泥砂、炭微量混 (川170下層) | | |

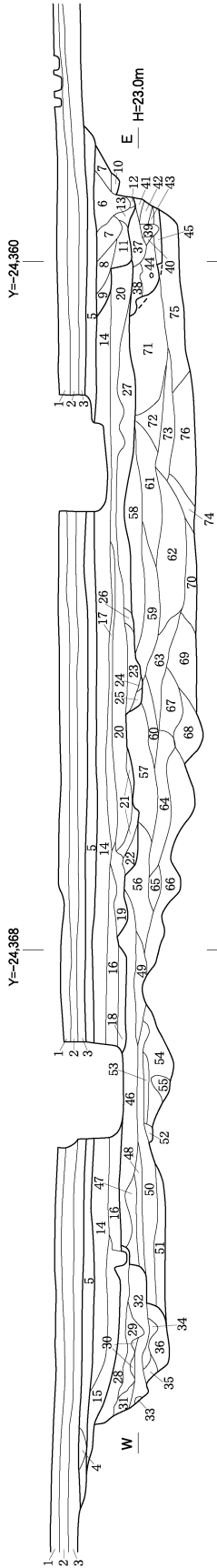
図9 1区南隣断面図(1:80)

1 区東壁断面図 (南半)



- 1 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥、礫・炭少量混 (耕作土)
- 2 10YR6/4にぶい黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (耕作土)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫・炭少量混 (溝1.6)
- 4 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、炭混 (柱穴189)
- 5 10YR4/4~4/6褐色砂 (柱穴171)
- 6 10YR5/3~5/4にぶい黄褐色シルト (地山)

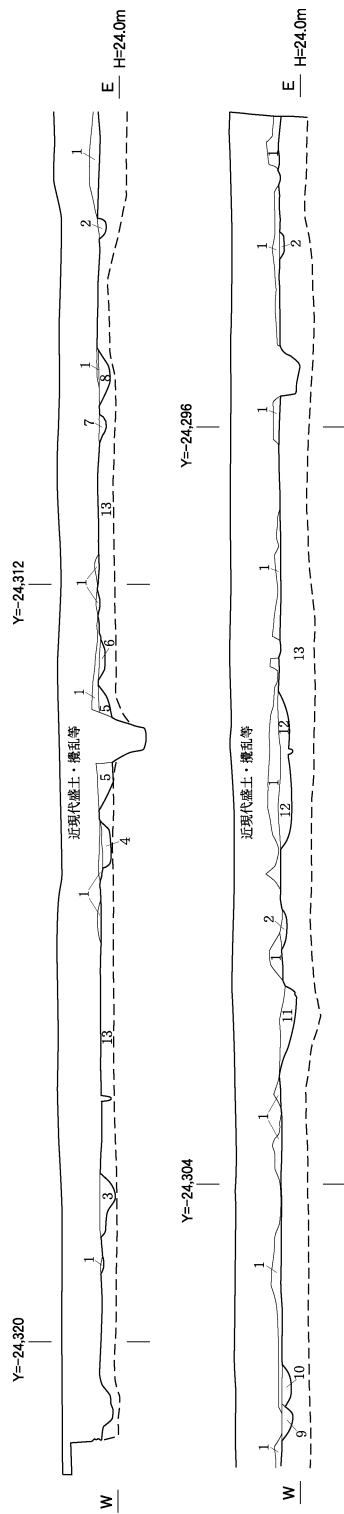
川170断面図 (X=-111,344ラインセクション)



- 1 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、炭微量混 (整地層)
- 2 10YR4/2~4/3灰黄褐色砂泥、炭微量混 (整地層)
- 3 10YR5/2灰黄褐色砂泥、鉄分多く、炭微量混 (整地層)
- 4 10YR5/2灰黄褐色砂泥、礫中量・炭微量混
- 5 10YR3/2黒褐色泥土、炭微量混
- 6 10YR4/1褐色細砂・礫・リモナイト多量・炭微量混
- 7 10YR4/2灰黄褐色泥土、リモナイト・炭微量混
- 8 10YR5/2灰黄褐色シルト、粗砂多量混
- 9 10YR4/2灰黄褐色泥土、リモナイト・炭微量混
- 10 10YR4/4褐色砂泥
- 11 10YR3/2黒褐色泥土、粗砂少量・炭微量混
- 12 10YR4/3褐色砂泥、礫・粗砂多量混
- 13 10YR5/2灰黄褐色泥土、炭少量・炭微量混
- 14 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫微量・リモナイト多量・炭微量混
- 15 2.5Y5/2暗灰黄褐色泥土、リモナイト多量・炭微量混
- 16 10YR4/2灰黄褐色泥土、炭微量混
- 17 10YR3/4暗褐色泥土、炭微量混
- 18 10YR4/2~4/3にぶい黄褐色泥土、炭微量混
- 19 10YR3/2黒褐色シルト、炭微量混
- 20 2.5Y3/1~3/2黒褐色泥土、炭微量混
- 21 2.5Y3/2黒褐色泥土、炭微量混
- 22 10YR3/2黒褐色泥土、7.5YR4/3褐色粗砂混
- 23 2.5Y3/1~2/1黒色泥土、炭微量混
- 24 7.5YR3/2黒褐色細砂
- 25 2.5Y3/2黒色泥土
- 26 10YR3/2黒褐色泥土、炭微量混
- 27 10YR4/2灰黄褐色シルト+
- 28 10YR4/2~3/2黒褐色泥土、炭少量・炭微量混
- 29 10YR3/2黒褐色泥土、炭微量混
- 30 7.5Y4/3褐色砂、炭少量混
- 31 10YR4/3にぶい黄褐色泥土、炭微量混
- 32 10YR3/2黒褐色泥土+
- 33 10YR4/3にぶい黄褐色シルト、炭微量混
- 34 10YR3/2黒褐色泥土、礫混
- 35 10YR4/1褐色細砂ブロック混、炭微量混
- 36 2.5Y5/2暗灰黄褐色シルト、炭少量混
- 37 10YR4/2灰黄褐色泥土
- 38 10YR3/2黒褐色泥土、炭微量混
- 39 2.5Y3/2黒褐色泥土、炭少量混
- 40 7.5Y4/1灰色泥土
- 41 10YR4/2灰黄褐色シルト、炭少量・骨微量混
- 42 10YR3/1オリーブ褐色泥土、炭微量混
- 43 10YR4/2オリーブ灰色泥土、炭中量混
- 44 2.5Y黒褐色シルト、礫・粗砂・骨混
- 45 7.5Y4/1灰色泥土、炭少量混
- 46 7.5YR4/4褐色粗砂、炭少量混
- 47 10YR4/2灰黄褐色泥土、炭少量混
- 48 7.5YR4/4褐色細砂+10YR3/2黒褐色泥土
- 49 2.5Y3/2黒褐色泥土、炭少量混
- 50 10YR3/4暗褐色砂泥
- 51 10YR3/3暗褐色砂泥
- 52 2.5Y4/3オリーブ褐色泥土
- 53 10YR3/2黒褐色シルト、炭多量混
- 54 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 55 2.5Y5/3黄褐色砂泥
- 56 10YR3/2黒褐色砂泥
- 57 10YR4/4褐色砂泥
- 58 10YR3/3暗褐色砂泥
- 59 10YR4/2灰黄褐色、炭微量混
- 60 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 61 10YR3/2黒褐色砂泥
- 62 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 63 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥
- 64 7.5Y4/3褐色砂泥
- 65 10YR4/4褐色砂泥
- 66 2.5Y5/3黄褐色粘土ブロック混
- 67 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 68 10YR4/4褐色砂泥
- 69 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 70 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 71 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 72 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 73 7.5Y2/1黒色泥土
- 74 10YR4/4褐色砂泥
- 75 10YR4/4褐色砂泥
- 76 7.5Y4/2褐色砂泥

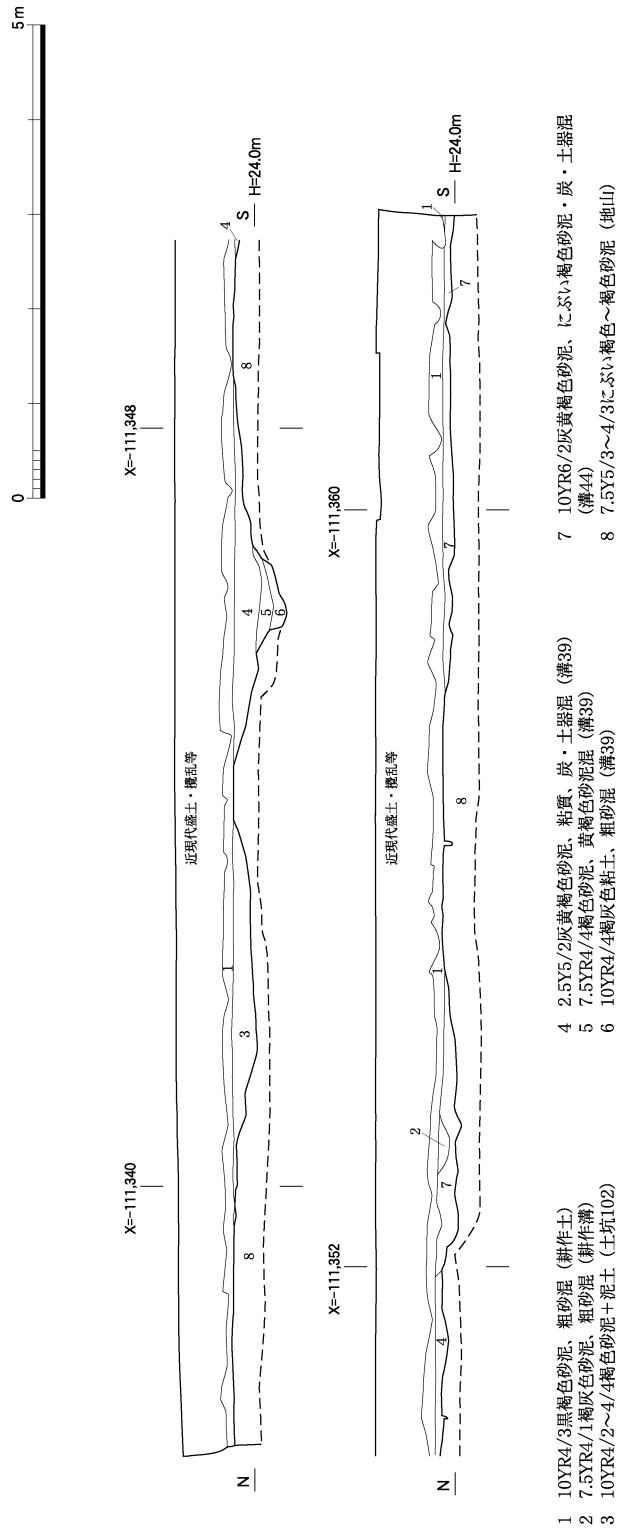
図 10 1 区東壁・川170 断面図 (1:80)

2 区北壁断面図



- 1 10YR4/3黒褐色砂泥、粗砂混（耕作土）
- 2 7.5YR4/1褐灰色砂泥、粗砂混（耕作溝）
- 3 7.5YR4/1~4/2褐灰~灰褐色砂泥、粗砂混（溝1）
- 4 7.5YR4/2~4/3灰黄褐色砂泥、粗砂混（溝2）
- 5 7.5YR4/2~4/3灰黄褐色砂泥、粗砂混（耕作溝）
- 6 7.5YR4/1~3/1褐灰色砂泥、粗砂混（耕作溝）
- 7 10YR4/2~4/3灰黄褐色砂泥、粗砂混（耕作溝）
- 8 10YR4/2灰黄褐色砂泥、粗砂混（耕作溝）
- 9 10YR5/3~4/3にぶい黄褐色砂泥、少量量混（溝41）
- 10 10YR5/3~4/3にぶい黄褐色砂泥、少量量混（溝42）
- 11 5Y2/1黒色粘土、微砂・小礫混（溝40）
- 12 2.5Y5/1暗灰黄色砂泥、粗砂混（溝101）
- 13 7.5Y5/3~4/3にぶい褐色~褐色砂泥（地山）

2 区東壁断面図



- 1 10YR4/3黒褐色砂泥、粗砂混（耕作土）
- 2 7.5YR4/1褐灰色砂泥、粗砂混（耕作溝）
- 3 10YR4/2~4/4褐色砂泥+泥土（土坑102）
- 4 2.5Y5/2灰黄褐色砂泥、粘質、炭・土器混（溝39）
- 5 7.5YR4/4褐色砂泥、黄褐色砂泥混（溝39）
- 6 10YR4/4褐灰色粘土、粗砂混（溝39）
- 7 10YR6/2灰黄褐色砂泥、にぶい褐色砂泥・炭・土器混（溝44）
- 8 7.5Y5/3~4/3にぶい褐色~褐色砂泥（地山）

図 11 2 区北壁・東壁断面図（1 : 80）



Y=-24,348

Y=-24,364

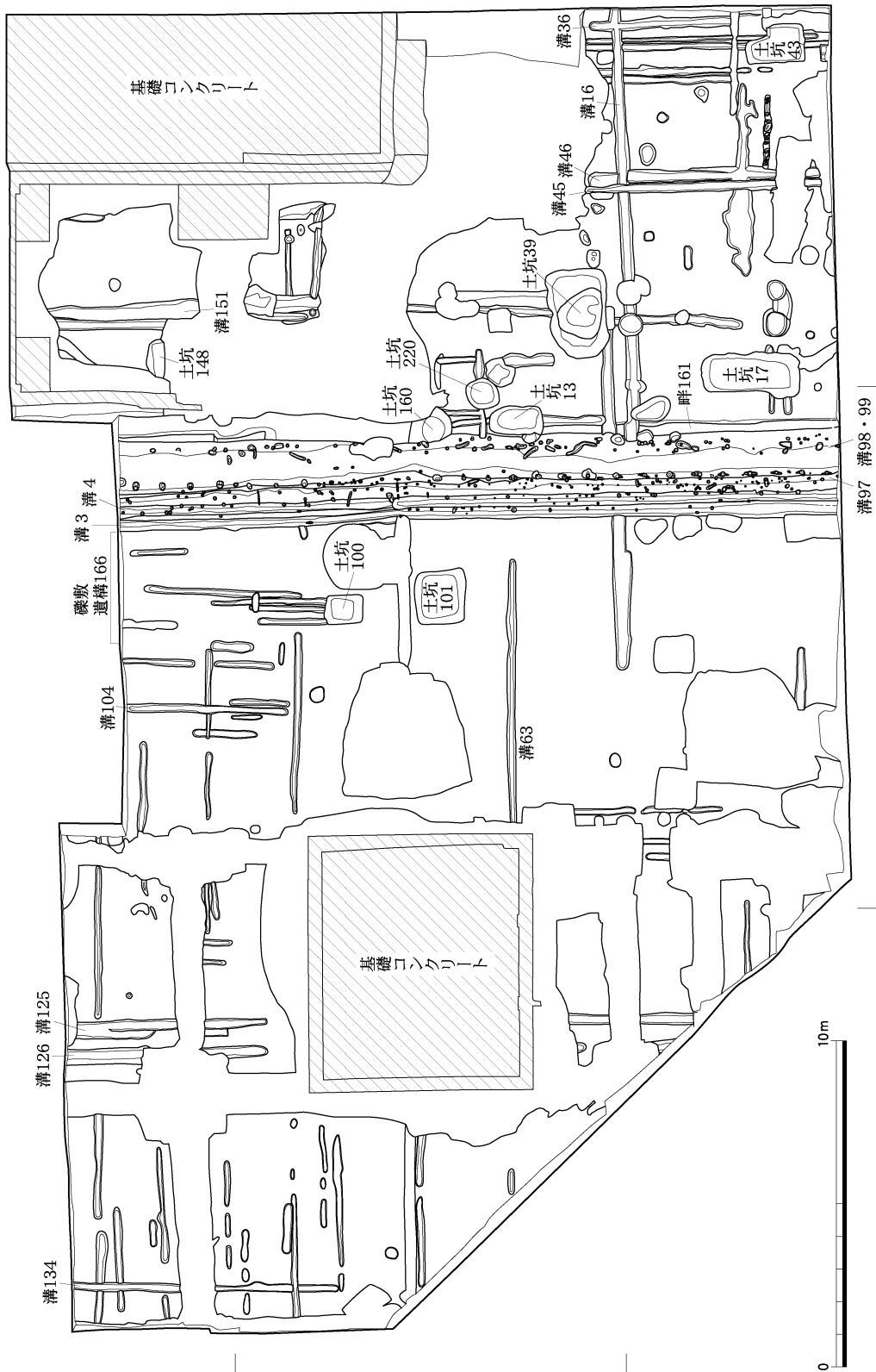


図12 1区第1面遺構平面図(1:200)

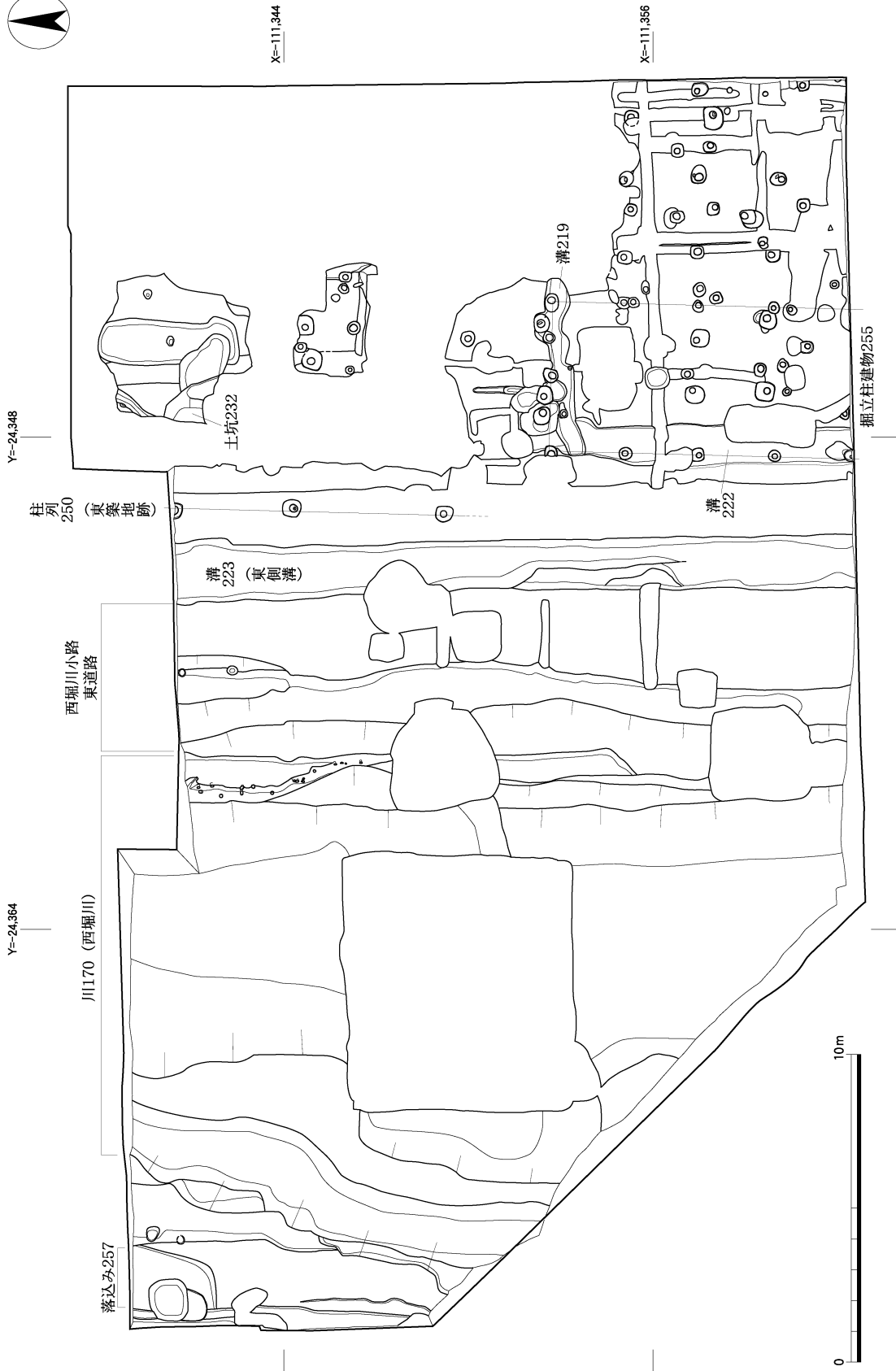


図 13 1区第2面遺構平面図(1:200)

3. 遺 構

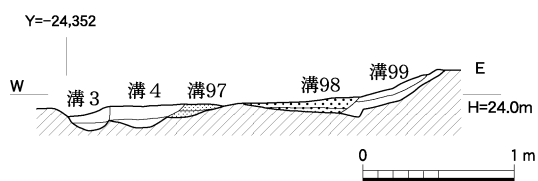
(1) 基本層序

調査地1区内の基本層序は、表土下約0.5mまで現代の整地・盛土層で、その下に0.15m程度の江戸時代以降の黒褐色系砂泥の耕土層がある。以下は基本的に褐色系砂泥の地山層となる。調査区東側では、この面で平安時代から室町時代以降の遺構を検出した。一方、調査区西側では耕土層の下に室町時代の整地層が厚い地点で0.5mある。その下は平安時代の西堀川の黒色系泥土による堆積層となり、川底は褐色系の砂礫層の地山となる。地山層の標高は調査区南壁の東側でおよそ24.1m、中央で23.9m、西部で22.3mである。

調査地2区は、調査以前は宅地と駐車場があり、宅地部分はコンクリート基礎が地表下1m以上に及び、遺構面は残っていない。それ以外のところは地表下約0.6mまでが現代盛土層である。その下に0.1～0.2m程度の江戸時代以降の黒褐色砂泥の耕土層があり、この耕土層は調査区の東側が漸次厚くなる。以下は褐色砂泥層の地山層になり、遺構は全てこの地山層を切り込んで検出している。地山層の標高は調査区東壁の北端でおよそ24.2m、南端で24.1mである。

(2) 遺構の概要

検出した遺構は、弥生時代または古墳時代から江戸時代以降のものがある。室町時代から江戸時代以降の遺構数は少なく、さらに古墳時代以前の遺構はごくわずかである。平安時代前期に属する遺構が8割以上を占めた。以下に、1区と2区に分けて記述する。なお、調査の都合上、室町時代以降と平安時代以前の遺構群に分けて調査を行っており、その順に記述する。



溝3	上層	10YR3/1~3/2	黒褐色砂泥～泥土	混炭、焼土
	下層	10YR3/1	黒褐色粘質土	
溝4	上層	7.5YR4/1~3/1	褐灰色～黒褐色粘質土	混炭、焼土
	下層	7.5YR3/1	黒褐色泥土	
溝97	上層	10YR4/1~3/1	褐灰色～黒褐色泥土	混炭、焼土
	下層	5YR3/2	暗赤褐色砂礫～10YR3/1 黒褐色砂泥	
溝98	上層	10YR4/2~2.5Y4/2	灰黄褐色～暗灰黄色砂泥	混礫、炭、焼土
	下層	10YR5/2~5/3	灰黄褐色～にぶい黄褐色粘土	混炭
溝99	上層	10YR4/2~4/3	灰黄褐色～にぶい黄褐色粘土	混微砂、炭、焼土
	下層	10YR5/2~4/2	灰黄褐色粘土	

図14 1区溝3・4・97～99断面図(1:50)

(3) 1区の遺構

検出した遺構は、室町時代以降の溝・杭跡・土坑など、平安時代前期の街路に関連する遺構と宅地内施設に関連する遺構、古墳時代の落込みなどである。遺構は褐色系砂泥の地山層の面で検出したが、ここでは室町時代以降の遺構を第1面、平安時代・古墳時代の遺構を第2面として記述する。

第1面の遺構 (図12、図版2)

室町時代以降の遺構には、溝・杭跡・土坑などがある。

溝3・4・97～99(図14) 調査区中央部東寄りで検出した南北方向の溝群である。幅0.3～0.8m、深さ約0.1～0.2mあり、調査区外の北と南に延びる。溝3・4の埋土は、耕作土に類似する10YR3/1黒褐色泥土で、溝97・98の埋土は、砂礫が混じる10YR3/1灰褐色砂泥である。溝99の埋土は、10YR4/2灰黄褐色砂泥である。溝の両肩には、杭が打ち込まれ、埋土下層に砂層があることから、護岸された水路とみられる。溝の時期は、溝99が最も古く、東から西へと新しくなる。97～99は土師器、京・信楽系陶器、肥前磁器などの出土遺物から江戸時代とみられるが、溝3・4は近代まで機能していたと考えられる。

溝16・36・125・126他 調査区全域で検出した小溝群である。幅0.3～0.5m、深さ0.1m前後あり、南北方向の溝が大半を占める。埋土は耕作土に類似する黒褐色系泥土が多い。耕作関連の溝であろう。埋土から京・信楽系陶器、肥前磁器などが出土した。

土坑13・39・43・101他 調査区東部で検出した。大きさ0.9～2.7m、深さ0.3～0.7mある。埋土は耕作土に類似する黒褐色系の泥土が多い。土取り跡とみられる。土師器、京・信楽系陶器、肥前磁器などの出土遺物から江戸時代とみられる。

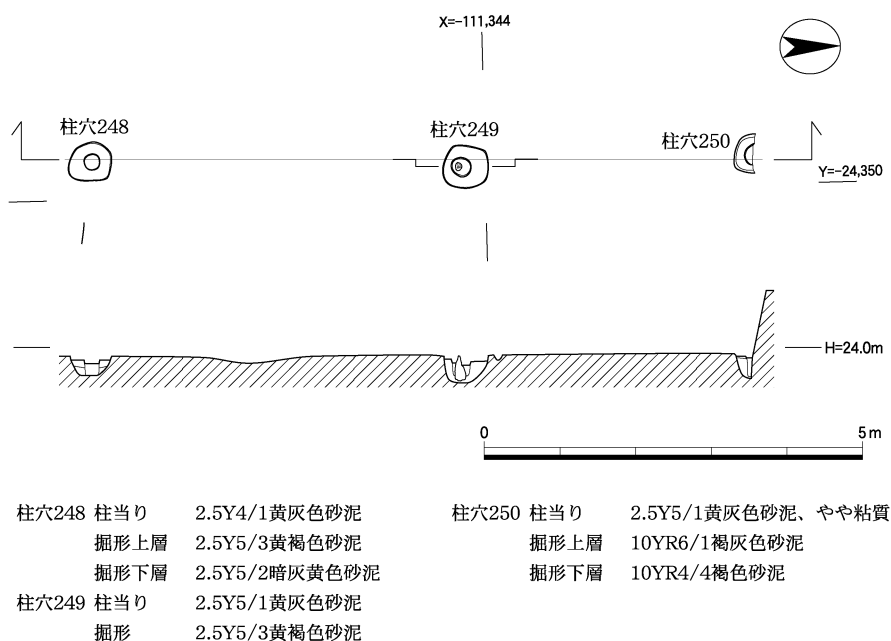


図15 1区柱列250実測図(1:100)

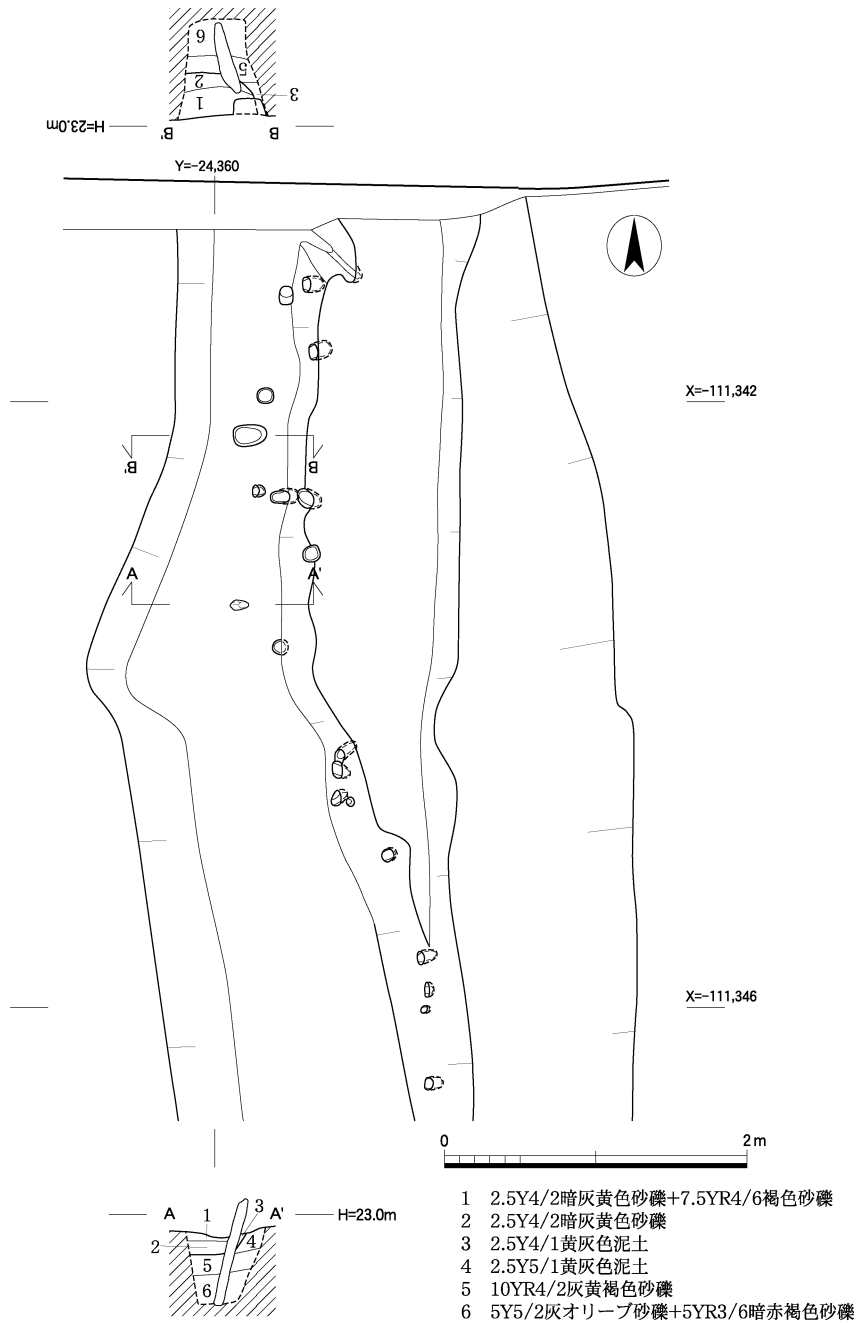


図 16 1区川 170 東肩杭列実測図 (1 : 50)



図 17 川 170 東肩杭列 A - B 間断割 (西から)

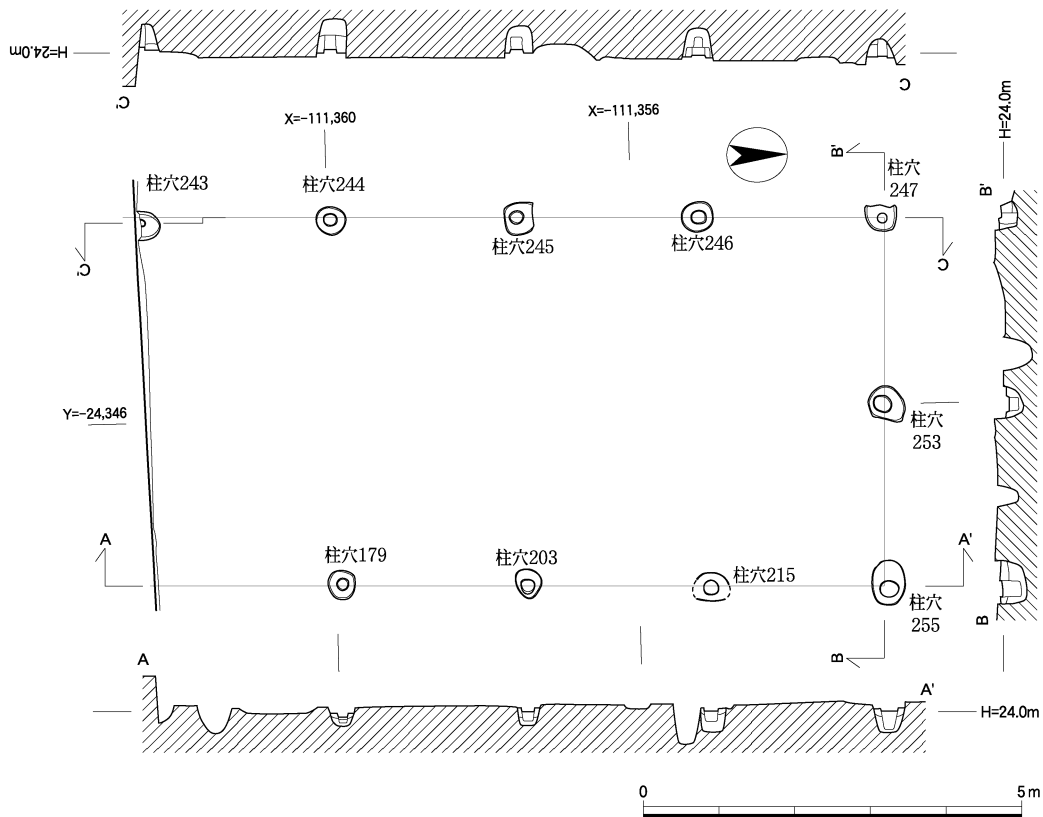


図 18 川 170 東肩杭列北端 (北から)

溝 45・46・63・104・134 他 調査区全域で検出した。幅 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.05 ~ 0.1 m ある。埋土は締まった灰黄褐色系砂泥が多い。耕作関連の溝であろう。

土坑 17・100・148・160・220 他 調査区東部で検出した。大きさ 0.9 ~ 3.0 m、深さ 0.5 ~ 0.9 m ある。埋土は締まった灰黄褐色系の砂泥が多い。土取りの跡であろう。土師器、瓦器、焼締陶器などの出土遺物から室町時代とみられる。

礫敷遺構 166 調査区中央部で南北にわたり検出した。調査区外の北と南に延びる。幅は南端で約 0.5 m、北端で約 3.7 m、最大幅約 4.0 m、厚さは約 0.05 m である。10YR5/3 にぶい黄褐



柱穴179 柱当り上層	10YR5/1 褐灰色砂泥	柱穴245 柱当り	10YR5/2 灰黄褐色砂泥
柱穴179 柱当り下層	2.5Y5/1 黄灰色砂泥	柱穴245 掘形	10YR4/1 褐灰色砂泥
柱穴179 掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥	柱穴246 柱当り上層	10YR5/1 褐灰色砂泥、炭、焼土微量混
柱穴179 掘形下層	10YR4/2 灰黄褐色砂泥	柱穴246 柱当り下層	2.5Y5/1 黄灰色砂泥
柱穴203 柱当り	10YR5/1 褐灰色砂泥	柱穴246 掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥、炭少量混
柱穴203 掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥	柱穴246 掘形下層	10YR4/2 灰黄褐色砂泥
柱穴203 掘形下層	10YR4/2 灰黄褐色砂泥	柱穴247 柱当り	10YR4/2 灰黄褐色砂泥
柱穴215 柱当り	10YR5/3~5/4 にぶい黄褐色砂泥、炭、土師器少量混	柱穴247 掘形東側	10YR5/2 灰黄褐色砂泥
柱穴215 掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥	柱穴247 掘形西側上層	2.5Y4/1 黄灰色砂泥
柱穴215 掘形下層	10YR5/2~4/2 灰黄褐色砂泥	柱穴247 掘形西側下層	10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥
柱穴243 柱当り	10YR6/2~5/2 灰黄褐色砂泥	柱穴253 柱当り	10YR5/1 褐灰色砂泥
柱穴243 掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥	柱穴253 掘形	10YR6/2 灰黄褐色砂泥
柱穴243 掘形下層	10YR4/4 褐色砂泥	柱穴255 柱当り	10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥
柱穴244 柱当り	10YR5/2 灰黄褐色砂泥、炭微量混	柱穴255 掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥
柱穴244 掘形上層	2.5Y5/2~4/2 暗灰黄色砂泥、炭少量混	柱穴255 掘形下層	10YR4/2 灰黄褐色砂泥
柱穴244 掘形下層	10YR5/1 褐灰色砂泥		

図 19 1区掘立柱建物 255 実測図 (1 : 100)

色砂泥層中に1～10 cm大の礫が多く混じる。土師器、瓦器、焼締陶器などの室町時代前期の遺物が出土した。

畔161 調査区の中央部東寄りで南北方向に検出した。幅約0.3 m、高さ約0.2 mの畔である。東から続く平坦面はここを境に、西側が一段低くなる。その段差は、約0.2 mである。調査区外の北と南に延びる。耕作地に伴う畦畔であろう。

整地層 調査区西部では、耕土層の下は後述する西堀川跡が埋没後も窪んだ状態になっており、厚さ約0.5 m前後の整地土が入られる。この整地土層は主に3層から成り、上層は10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、中層は10YR4/2～4/3黄褐色砂泥、下層は10YR5/3にぶい黄褐色砂泥である。この整地層からは室町時代の土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類などが出土した(図32)。

第2面の遺構(図13、図版2)

平安時代前期の街路に関連する遺構には、西堀川小路の東築地・東側溝・東道路・西堀川などがある。また、宅地内施設に関連する遺構では、六町内の築地内溝・建物跡・土坑などがある。それ以外には、古墳時代の落込みがある。

柱列250(図15) 調査区中央東寄りで検出した南北柱穴列である(柱穴248～250)。掘形径は約0.5 m、柱間は北から3.9 m・4.9 mと不揃いである。柱穴249には柱根(ヒノキ材)が遺存している。柱穴は上部を削平されて基底部分のみであるが、その位置から西堀川小路の東築地と考えられる。

溝223(図版3) 調査区中央東寄りで検出した南北方向の溝である。幅約2 m、深さ0.2 mある。上部が削平されており、底部のみが残っている。埋土は2.5Y5/2暗灰黄色泥土である。遺物は土師器の小片が出土した。調査区外の北と南に延びており、検出した位置から西堀川小路の東側溝と考えられる。

東道路 調査区中央東寄り、溝223の西側の平坦面である。幅は約6 mあるが、そのうち西側の幅約3 m分は西側に緩やかに傾斜する。上部が削平されたとみられ、路面敷は残っていない。調査区外の北と南に延びる。西堀川小路の東道路と考えられる。

川170(図版4) 調査区西半で検出した南北方向の川である。幅約14～16 m、深さは約1.1 mである。南北約25 mにわたって確認した。東肩部はほぼ推定位置で検出した。西肩部は、西側に大きく拡がり、X=-111,350付近では、西堀川小路西築地の推定位置を越えさらに西側で検出した。しかし、南側では川幅がやや狭くなる状況がある。川の深さは不均一で、東端・西端では一段低くなる溝状となり、他にも底部には南北に長い大・小の窪みは何箇所も見られる。下層は褐色系の砂および砂礫となる。上層は黒色系の泥土が厚く堆積している。東岸の川底には杭および杭抜き取り穴を数列検出した(図16～18)。下層の砂礫層では9世紀後半の遺物、上層の泥土層からは12世紀代の遺物が出土している(図31)。南側の川底部で延喜通寶が10枚まとまって出土した(図39)。

溝222 調査区南東部で検出した南北方向の溝である。幅約1.3 m、深さ0.1 mある。築地堀

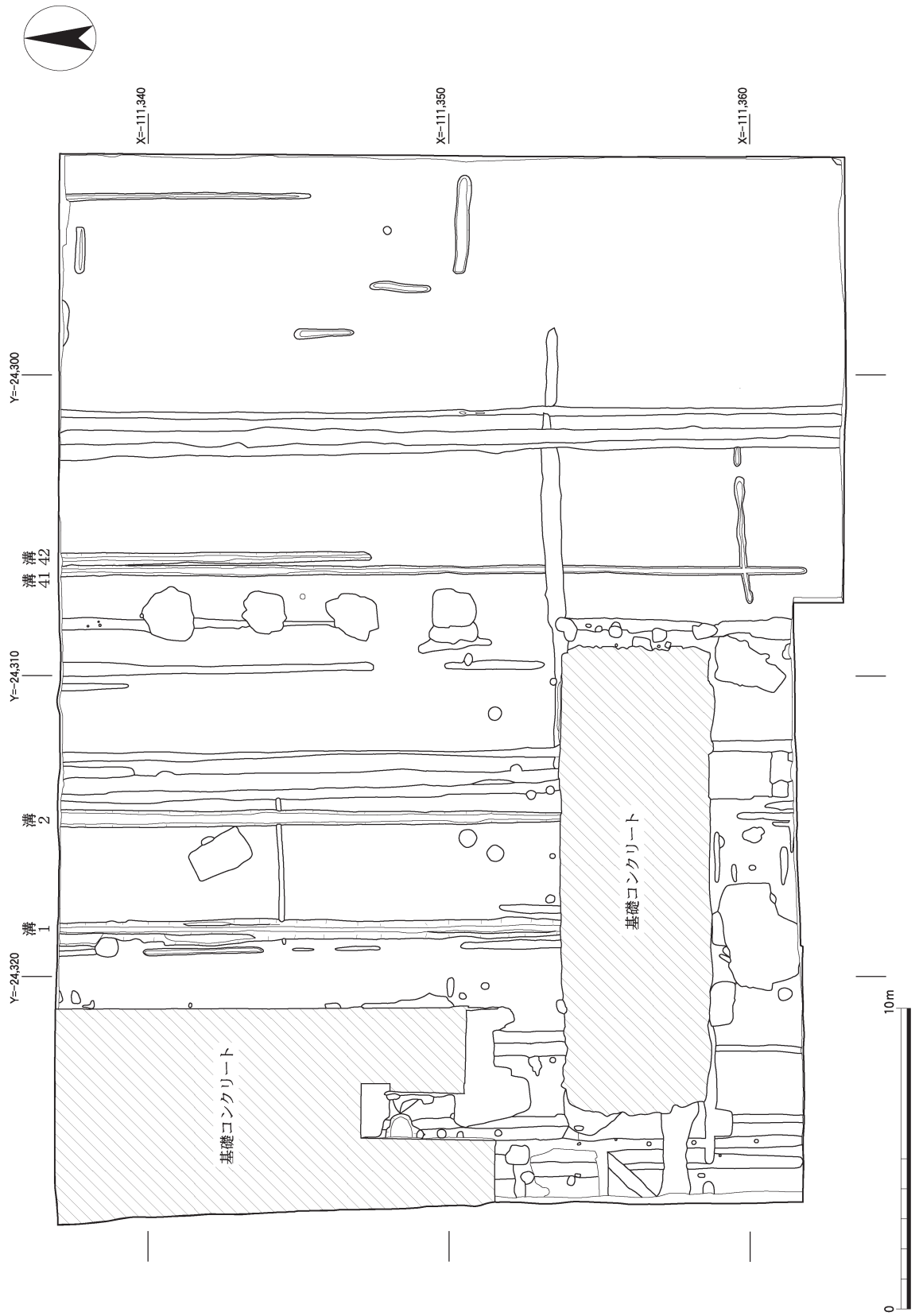


図 20 2区第1面遺構平面図(1:200)

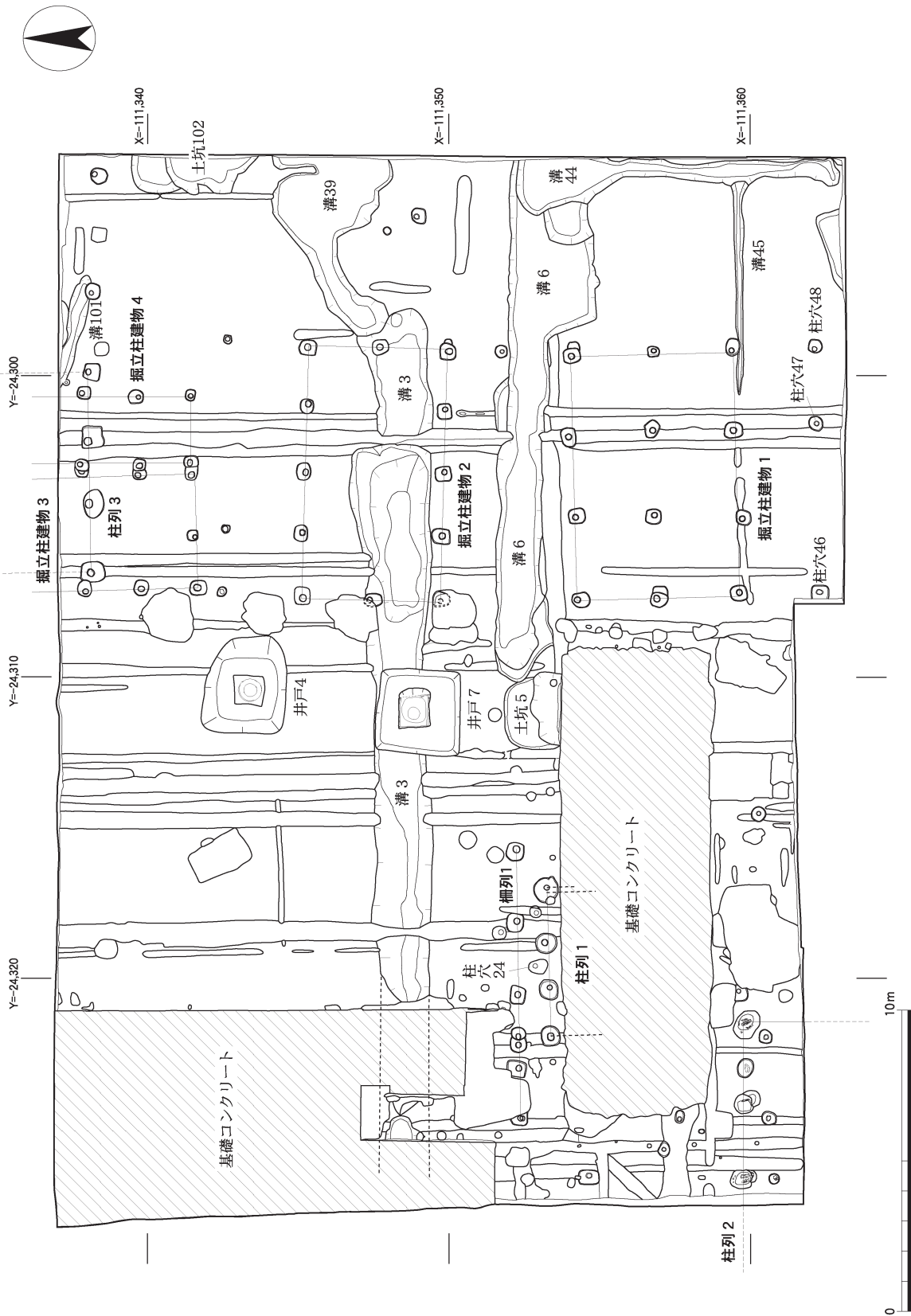
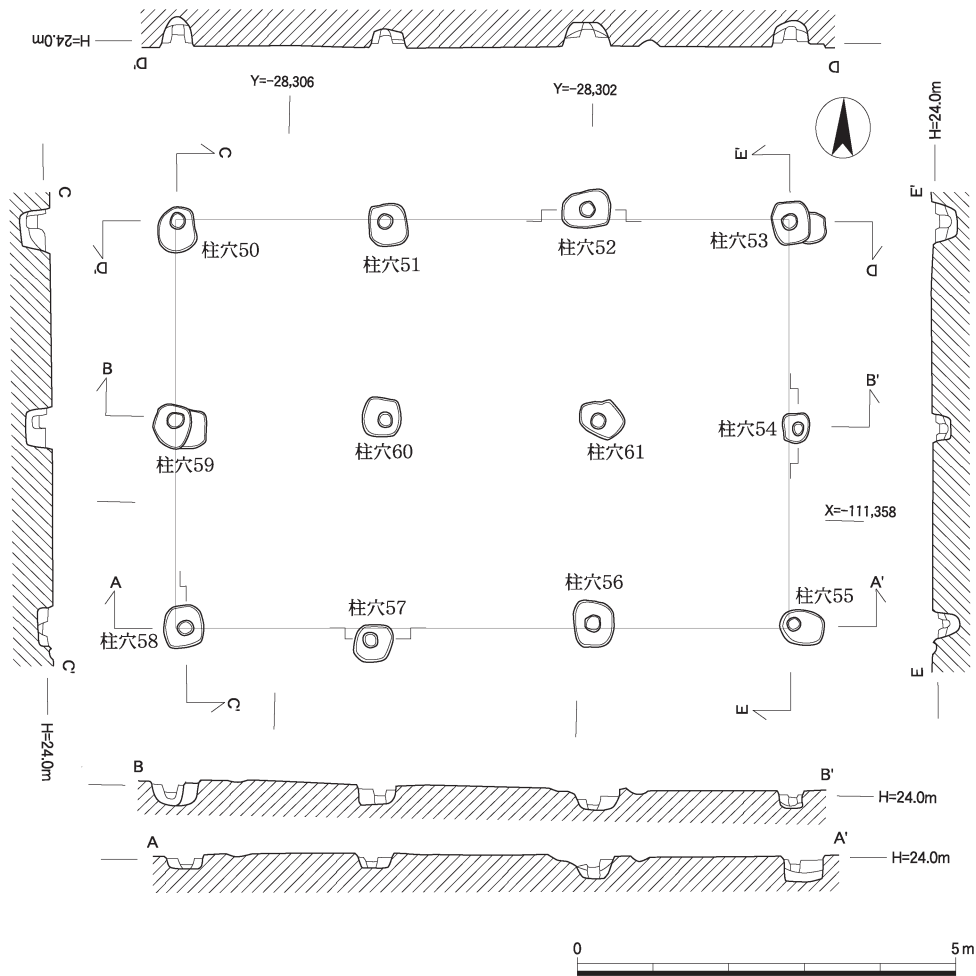
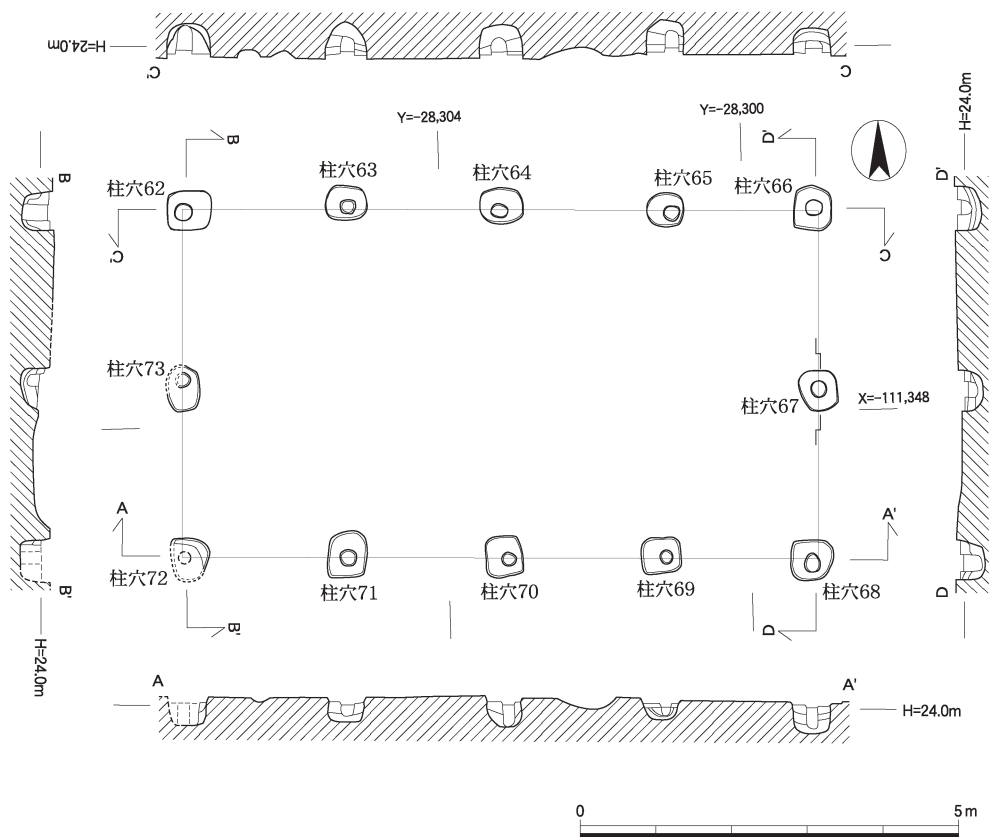


図 21 2区第2面遺構平面図(1:200)



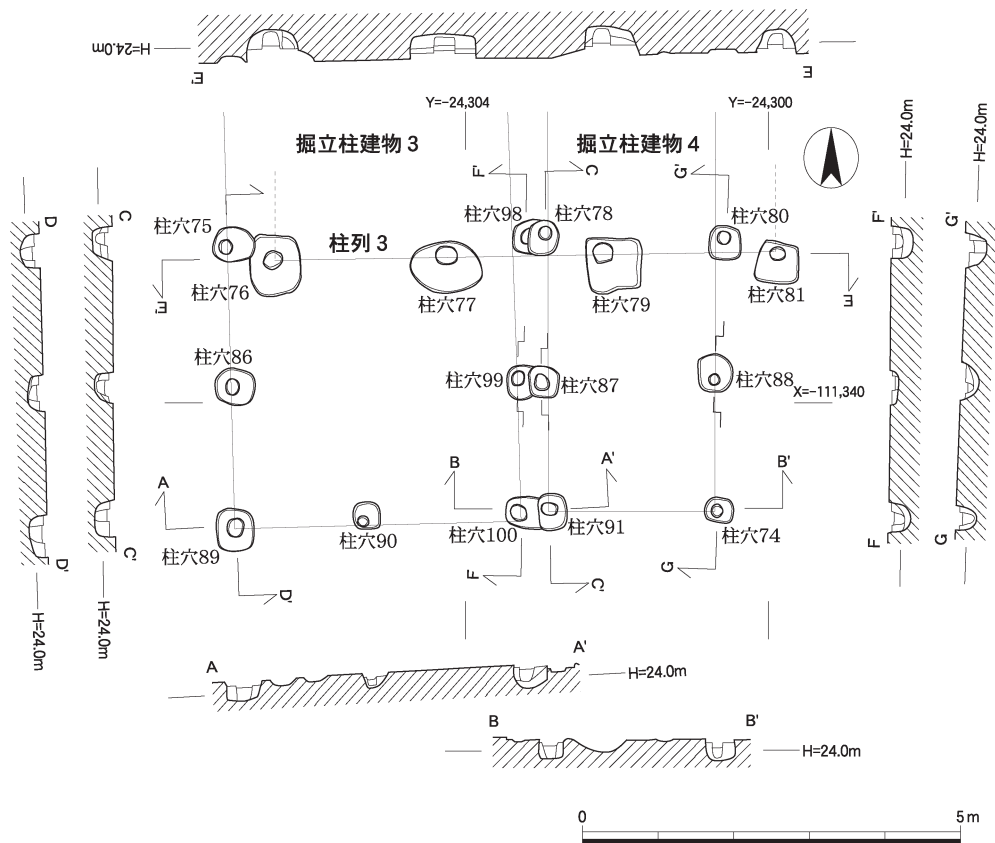
柱穴50	柱当り	2.5Y3/2黒褐色砂泥	柱穴56	柱当り	2.5Y4/6オリーブ褐色砂泥
	掘形上層	2.5Y5/1黄灰色砂泥		掘形上層	2.5Y5/1黄灰色砂泥
	掘形下層	2.5Y4/6オリーブ褐色砂泥		掘形下層	2.5Y4/6オリーブ褐色砂泥
柱穴51	柱当り	2.5Y3/2黒褐色砂泥	柱穴57	柱当り	2.5Y5/3黄褐色砂泥
	掘形上層	2.5Y5/1黄灰色砂泥		掘形	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
	掘形下層	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥	柱穴58	柱当り	2.5Y3/2黒褐色砂泥
柱穴52	柱当り	2.5Y5/1黄灰色砂泥		掘形	2.5Y5/1黄灰色砂泥
	掘形上層	2.5Y4/1黄灰色砂泥	柱穴59	柱当り	2.5Y4/4褐色砂泥
	掘形上下	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥		掘形	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥
柱穴53	柱当り	2.5Y3/2黒褐色砂泥	柱穴60	柱当り	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
	掘形上層	2.5Y4/6オリーブ褐色砂泥		掘形	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
	掘形下層	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴61	柱当り	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
柱穴54	柱当り	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥		掘形	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥
	掘形上層	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥	柱穴55	柱当り	2.5Y5/1黄灰色砂泥
	掘形下層	2.5Y4/6オリーブ褐色砂泥		掘形上層	2.5Y4/1黄灰色砂泥
				掘形下層	2.5Y3/2黒褐色砂泥

図 22 2区掘立柱建物1実測図(1:100)



柱穴62	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土	柱穴68	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土
	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土		掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
	掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥		掘形中層	10YR5/2 灰黄褐色粘質土
柱穴63	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土		掘形下層	10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土	柱穴69	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土
	掘形中層	10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土		掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
	掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥、10YR4/1 褐灰色粘土ブロック混		掘形中層	10YR3/4 暗褐色砂泥
柱穴64	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土		掘形下層	10YR4/1 褐灰色砂泥
	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土		掘形最下層	10YR4/4 褐色粘質土
	掘形中層	10YR4/4 褐色粘質土	柱穴70	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土
	掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥、10YR4/1 褐灰色粘土ブロック混		掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
柱穴65	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土		掘形下層	10YR4/4 褐色粘質土
	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土	柱穴71	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土
	掘形中層	10YR4/4 褐色粘質土		掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
	掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥		掘形下層	10YR4/4 褐色粘質土
柱穴66	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土	柱穴72	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土		掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥
	掘形中層	10YR4/4 褐色粘質土	柱穴73	柱当り	10YR4/2 灰黄褐色粘質土、礫混
	掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥		掘形上層	10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥、礫混
柱穴67	柱当り	10YR4/1 褐灰色粘質土		掘形中層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
	掘形上層	10YR4/2 灰黄褐色粘質土		掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥
	掘形中層	10YR4/4 褐色粘質土			
	掘形下層	10YR3/4 暗褐色砂泥			

図 23 2区掘立柱建物2 実測図 (1 : 100)



柱穴74	柱当り 掘形	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴86	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR5/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/6褐色砂泥
柱穴75	柱当り 掘形	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR4/3~5/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴87	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR5/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/4褐色砂泥
柱穴76	柱当り 掘形西 掘形東上層 掘形東下層	10YR4/4褐色砂泥 10YR5/2灰黄褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/4褐色砂泥	柱穴88	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR5/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥
柱穴77	柱当り上層 柱当り下層 掘形上層 掘形下層	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/4褐色粘質土 10YR4/4褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴89	柱当り 掘形	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
柱穴78	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/3~5/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴90	柱当り 掘形	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
柱穴79	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR5/1褐灰色粘質土 10YR4/4褐色粘質土	柱穴91	柱当り 掘形	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥
柱穴80	柱当り 掘形	10YR5/2灰黄褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴98	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR5/4~4/4にぶい黄褐色砂泥
柱穴81	柱当り 掘形	10YR4/4褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴99	柱当り 掘形	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥
			柱穴100	柱当り 掘形上層 掘形下層	10YR5/2灰黄褐色砂泥 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 10YR4/4~4/6褐色砂泥

図 24 2区掘立柱建物3・4、柱列3実測図(1:100)

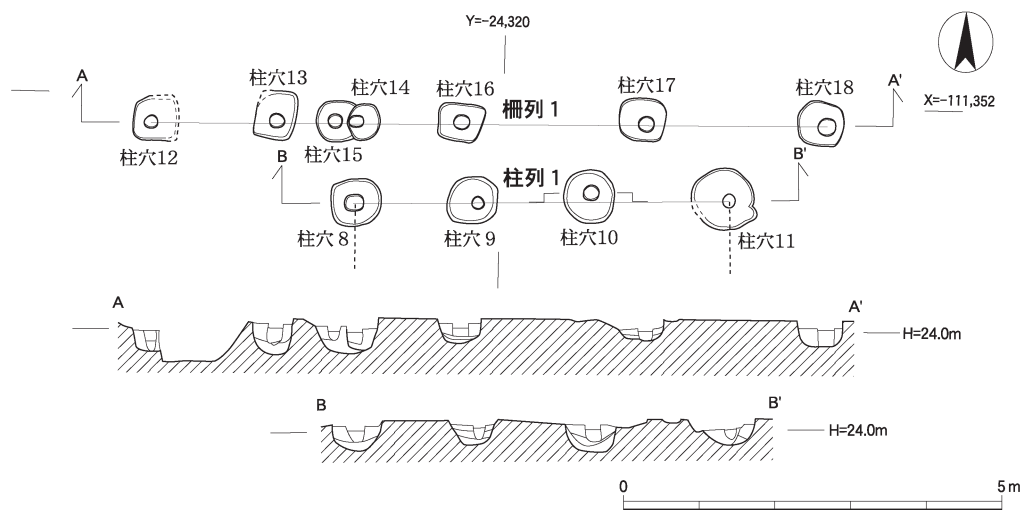
に並行するため築地内溝と考える。調査区外の北と南に延びる。埋土は 10YR6/2 灰黄褐色砂泥である。9 世紀後半の土器類が少量出土した。

溝 219 調査区南東部で検出した東西方向の溝である。幅約 0.8 m、深さ 0.2 m である。埋土は 10YR7/1 灰白色砂泥である。9 世紀後半の土器類が少量出土した。

掘立柱建物 255 (図 19) 調査区の南東部で検出した東西 2 間 (4.8 m)、南北 4 間 (9.7 m) 以上の南北棟である。柱穴掘形は径約 0.4 m で円形が多く深さは 0.2 ~ 0.5 m であるが、柱穴 255 は径 0.45 ~ 0.6 m の隅丸方形である。棟の柱間は北から 2.4 m・2.4 m・2.4 m・2.5 m である。梁行の柱間は 2.5 m の等間隔である。調査区外の南に延びる可能性がある。出土遺物から 9 世紀中頃の建物と考えられる。

土坑 232 調査区の北東部で検出した。東西 2.6 m 以上、南北 2.7 m 以上の不定形で、深さ約 0.3 m である。埋土は 2.5Y5/2 暗灰黄褐色砂泥である。攪乱により不明であるが西と北に延びる。9 世紀前半の土師器の杯や甕類などの土器類が出土した (図 31)。

落込み 257 調査区の北西部で検出した。東西 2.6 m 以上、南北 2 m 以上の不定形で、深さ約 0.2



柱穴 8	柱当り	10YR5/1 褐灰色泥土、砂泥混	柱穴 13	柱当り上層	7.5YR5/1~5/2 褐灰色泥土
	掘形上層	10YR5/1 褐灰色砂泥		柱当り下層	7.5YR5/1 褐灰色粘土
	掘形下層	7.5YR4/3 褐色砂泥、粘質		掘形上層	7.5YR5/1~5/2 褐灰色砂泥
				掘形下層	7.5YR5/2 灰褐砂泥
柱穴 9	柱当り	10YR5/2~5/3 灰黄褐色泥土	柱穴 14	柱当り	7.5YR5/1 褐灰色泥土
	掘形上層	10YR5/1~5/2 褐灰色泥土、砂泥混		掘形	7.4YR4/2 灰褐色砂泥
	掘形中層	7.5YR5/4 黄褐色砂泥、やや粘質			
	掘形下層	7.5YR4/3 褐色砂泥、粘質	柱穴 15	柱当り	7.5YR5/1 灰褐色粘質土
柱穴 10	柱当り	10YR5/2 灰黄褐色泥土		掘形上層	10YR5/1 褐灰色泥土、砂泥混
	掘形上層	10YR5/2 灰黄褐色泥土、砂泥混		掘形下層	7.5YR4/2 灰褐色砂泥
	掘形中層	10YR5/2 灰黄褐色砂泥	柱穴 16	柱当り	7.5YR5/1 褐灰色粘土
	掘形下層	7.5YR4/3 褐色粘質砂泥		掘形上層	7.5YR3/3 暗褐色砂泥、粘土混
柱穴 11	柱当り	10YR5/2 灰黄褐色泥土、炭・焼土混		掘形中層	7.5YR3/3 暗褐色砂泥、粘質
	掘形上層	7.5YR4/2 褐色砂泥、泥土混		掘形下層	7.5YR3/3 暗褐色砂泥、礫混
	掘形中層	7.5YR4/2 黒褐色砂泥、泥土混	柱穴 17	柱当り	7.5YR5/1 褐灰色粘土
	掘形下層	7.5YR4/2 褐色泥砂		掘形上層	7.5YR3/2 黒褐色砂泥、泥土混
柱穴 12	柱当り上層	7.5YR4/1 褐灰色泥土		掘形下層	7.5YR4/3 褐色砂泥、少礫混
	柱当り下層	10YR4/4 褐色砂泥	柱穴 18	柱当り	10YR5/3 灰黄褐色砂泥
	掘形	7.5YR4/3 褐色砂泥、やや粘質		掘形上層	7.5YR4/1 褐灰色砂泥小礫・焼土混
				掘形下層	7.5YR4/3 褐色砂泥、粘質

図 25 2 区柱列 1・柵列 1 実測図 (1 : 100)

mある。埋土は10YR5/2 灰黄褐色砂泥である。調査区外の西と北に延びる。古墳時代前期の器台や甕類などの土器類が出土した(図30)。

(4) 2区の遺構

検出した遺構は、江戸時代後半の耕作溝、平安時代前期の建物・柱列・溝・井戸・土壇など、弥生時代から古墳時代にかけての溝・土坑などである。調査では、江戸時代後半の遺構を第1面とし、平安時代前期およびそれ以前の遺構を第2面とした。

第1面の遺構(図20、図版5)

江戸時代後期の遺構には、耕作に伴う溝がある。

溝1・2・41・42 いずれも南北溝で、南に行くほど浅くなる。最も形状がわかる北壁付近で、幅約0.3m、深さ0.15m程度である。出土遺物に中世期の土師器・瓦器・陶磁器類などが少量混入していたが、江戸時代後期の肥前磁器や京・信楽系陶器などが主体である。ただいずれも小片である。

耕作に伴う溝としては、この他に近・現代のものがあり、調査区の西側で多く検出した。

第2面の遺構(図21、図版5)

第2面とした遺構には、平安時代前期の宅地内施設に関連するものと、それ以前の弥生時代から古墳時代にかけてのものがある。

掘立柱建物1(図22、図版7) 調査区南東寄りで検出した掘立柱建物である。東西3間(8.1m)、南北2間(5.4m)の東西棟である。桁行と梁行の柱間は約2.7m等間である。身舎中央部に柱列(柱穴60・61)が並び、総柱もしくは中央柱列が束柱になる掘立柱建物である。柱穴掘形は径約0.5mの隅丸方形で、深さは0.2~0.3mである。柱穴掘形からは土師器・須恵器などの小片が出土した。建物から2.7~2.8m南側に東西柱列(柱穴46・47・48)があり、建物の南庇の可能性もあるが、検出できない柱穴があり確定できない。建物の主軸は東で約1.5度北に傾く。

掘立柱建物2(図23、図版8) 調査区中央東寄りで検出した掘立柱建物である。東西4間(8.4m)、南北2間(4.6m)の東西棟である。桁行の柱間平均は2.1m、梁行の柱間平均は約2.35m

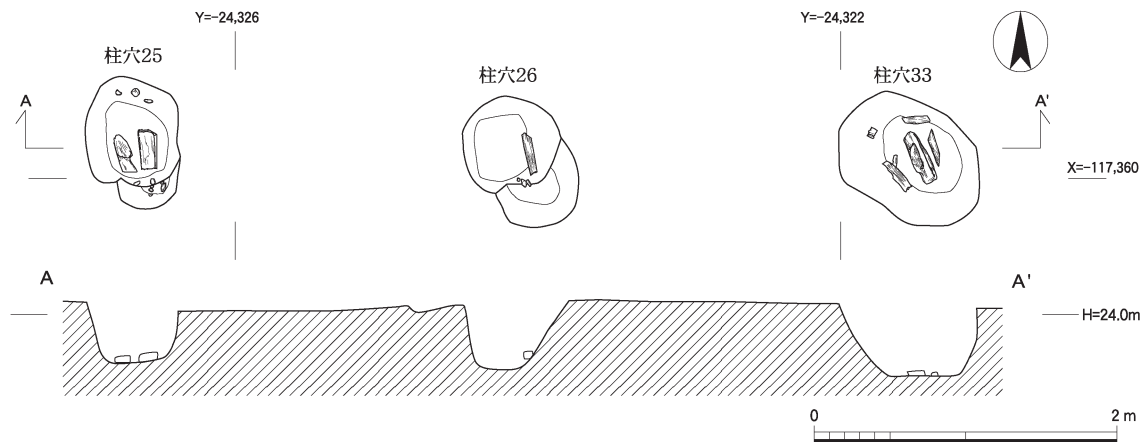
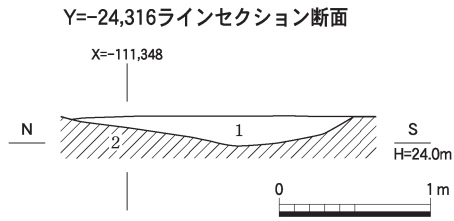
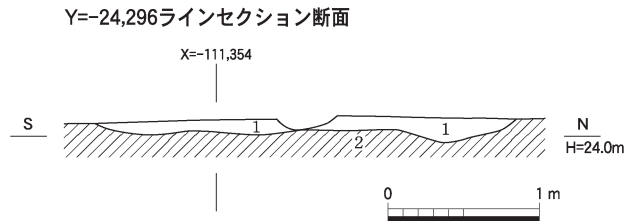


図26 2区柱列2礎板実測図(1:50)



- 1 10YR4/2~3/2灰黄褐色～黒褐色砂泥、炭・焼土混
- 2 7.5YR4/3~4/4にぶい黄褐色～褐色砂泥、粘土混（地山）

図 27 2区溝3断面図（1：50）



- 1 10YR5/2灰黄褐色砂泥～粘土、炭混
- 2 7.5YR5/4~4/4にぶい褐色～褐色砂泥、粘土混（地山）

図 28 2区溝6断面図（1：50）

である。柱穴掘形は径 0.5 ～ 0.6 m の隅丸方形で、深さは 0.3 ～ 0.5 m である。掘立柱建物 1 と東西の柱筋がほぼ揃い、間隔は約 4.2 m ある。柱穴掘形からは土師器の小片などが出土している。主軸は東で約 1.5 度南に傾く。

掘立柱建物 3（図 24、図版 8）調査区中央北寄りで見出した掘立柱建物である。南北 2 間（3.8 m）以上、東西 2 間（3.8 m）の南北棟に復元した。桁行の柱間は約 1.9 m 等間、梁行の柱間は西から 1.7 m・約 2.1 m である。柱穴掘形は径 0.4 ～ 0.5 m の隅丸方形で、深さ約 0.2 m である。主軸は北で約 1.5 度西に傾く。西側柱列が掘立柱建物 1・2 の西側柱筋にほぼ揃う。

掘立柱建物 4（図 24、図版 8）調査区中央北寄りで見出した小規模な掘立柱建物である。南北 2 間（3.8 m）、もしくは 2 間以上、東西 1 間（2.2 m）の南北棟に復元した。桁行の柱間は約 1.9 m 等間、柱穴掘形は径約 0.4 m の隅丸方形で、深さ約 0.3 m である。掘立柱建物 3 の東側柱穴と西側柱穴が重なり、時期的に新しい。掘立柱建物 3 の建て直しもしくは拡幅の可能性もあり、一概に決められないが、本報告では時期差のある別棟と考えておく。柱穴掘形から微量の土師器・須恵器が出土している。

柱列 1（図 25、図版 6）調査区の南西部で見出した東西柱穴列である（柱穴 8 ～ 11）。柱穴掘形は径 0.6 ～ 0.8 m のほぼ円形、深さは約 0.4 m で、柱間はほぼ 1.6 m 等間である。柱穴の規模が大きく、柱痕跡の径が太いことと柱間が狭いことから、南に展開する 3 間 × 3 間の総柱の倉庫状建物が想定できる。ただ、南側が既存のコンクリート建物基礎によって、大きく削平されており不明である。柱穴掘形から土師器・須恵器の小片が出土している。

なお本調査に先立つ試掘調査¹⁾で、柱列の中央やや北寄りに須恵器壺を納めた柱穴状の遺構（柱穴 24）が見出されており、柱列 1 に関連する埋納遺構の可能性はある。

柱列 2（図 26、図版 6）調査区の南西隅で見出した東西柱穴列である（柱穴 25・26・33）。柱穴掘形は長軸 0.7 ～ 0.9 m の不整楕円形で、深さ 0.4 ～ 0.5 m である。柱間はほぼ 2.7 m 等間である。掘形の底に長さ約 0.3 m、幅約 0.1 m、厚さ約 0.1 m 程度の木材（ヒノキ）を 1 ～ 3 本据え、礎板の代用とする。検出できた柱穴は 3 基であるが、調査区外南西部に延びる建物の北東部である可能性が高い。

柱列 3（図 24、図版 8）調査区の中央北隅で見出した東西柱穴列である（柱穴 76・77・79・81）。柱穴掘形は柱穴 77 が長軸 1.0 m の楕円形、その他は一辺 0.6 ～ 0.7 m の方形で、深さ 0.3 ～ 0.4 m である。柱間は東から 2.3 m・2.1 m・2.3 m である。柱穴掘形が大きく、調査区外の北に延び

る建物の南端柱列と考えられる。東端の柱穴 81 はやや規模が小さく、東に庇が付く梁行 2 間の南北棟の可能性が高い。柱穴の重複関係から掘立柱建物 3・4 に先行する柱列である。柱穴掘形から土師器・須恵器の小片が出土している。

柵列 1 (図 25、図版 6) 調査区の中央西寄りで検出した東西柱穴列である(柱穴 12 ~ 18)。柱穴掘形は一辺 0.5 ~ 0.6 m の隅丸方形のものが多く、深さ 0.3 ~ 0.4 m である。柱間は東から 2.4 m・2.4 m、1.7 m・0.75 m・1.8 m と不揃いである。柱穴 14 が重複しており、造り替えあるいは補修が行われたと思われる。柵列 1 の東に延びる溝 6 と共に宅地内を区画する施設と考えられる。また、柵列 1 の北側 3.6 m の位置に後述する溝 3 が並列しており、溝 3 が六町東四行の宅地境に位置することから、屋敷境の北側柵列とも考えられる。柱穴掘形から土師器などの小片が出土している。

溝 3 (図 27) 溝 3 は調査区の中央を東西に画するもので、幅約 2.0 m、深さ約 0.2 ~ 0.3 m ある。前述のように検出した位置が四行八門の宅地境に当たることから、宅地境の溝と推定できる。東端部には北側から溝 39 が取り付くが、序々に浅くなる。西側は調査区外に延びると思われるが、既存のコンクリート建物基礎に分断され不明である。9 世紀中頃から後半の出土遺物がある(図 36)。井戸 7 と重複し、溝 3 が新しい。

溝 6 (図 28) 調査区中央の Y=-24,310 以東で検出した。幅約 1.5 m、深さ約 0.15 ~ 0.2 m ある。東端で南から L 字状に溝 44 が取り付き、東に序々に深くなり調査区外へ延びる。溝 3 の約 3 m 南側を平行に延びることから、溝 3 とともに宅地境の溝を形成していたと考えられる。9 世紀中頃から後半の出土遺物がある(図 35)。

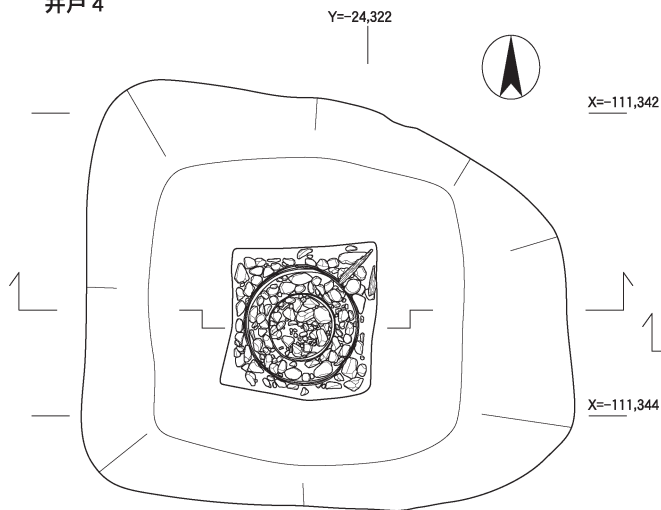
溝 39 調査区中央東寄りで検出した。平面形は不定形で北東部に拡がっており、溝 3 に取り付く部分が幅約 1.0 m、深さ約 0.1 m の溝状になる。宅地内の凹地で、雨水などの一時的な排水機能があったものと思われる。出土遺物は溝 3 と同様であるが、より小片で図示できるものはない。

溝 44 調査区東端南寄りで検出した。幅 0.5 ~ 0.6 m、深さ約 0.1 m で、北端は溝 6 に取り付き、X=-111,360 ライン付近で、西から溝 46 が取り付く。南はやや浅くなりながら調査区外に延びる。土師器類・須恵器甕などの小片が出土している。

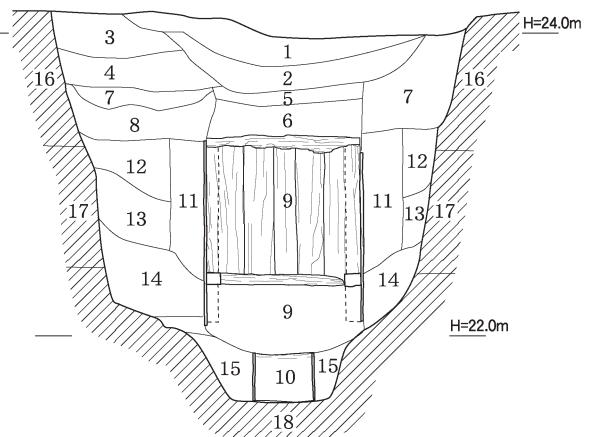
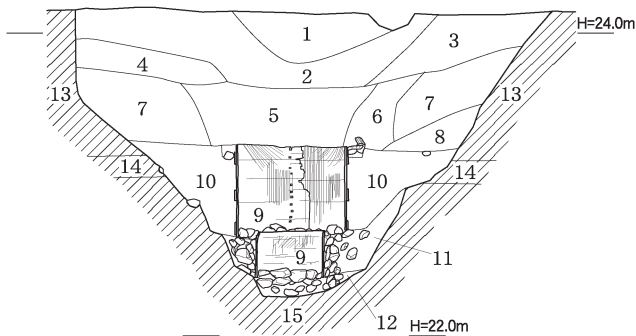
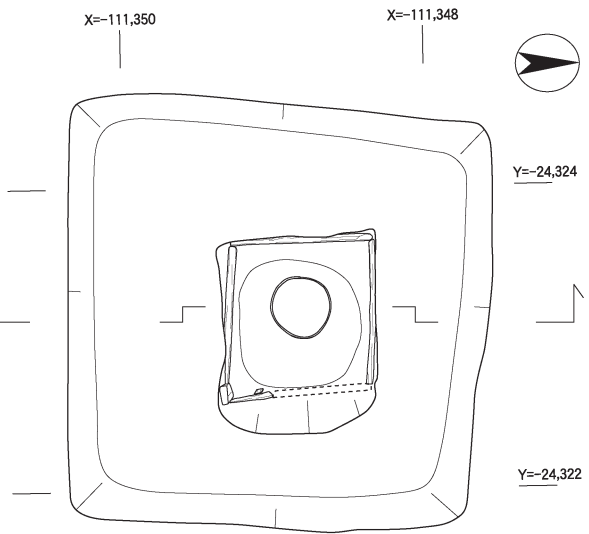
溝 45 調査区南東寄りで検出した。幅約 0.2 m、深さは溝 44 に取り付く東端で最も深く、約 0.1 m ある。東側で掘立柱建物 1 と重複しており、溝 45 が新しい。

井戸 4 (図 29、図版 6) 調査区中央北寄りで検出した。東側が一部崩壊しているが、一辺約 2.8 m の隅丸方形の掘形で、井戸枠は上段が幅約 1.0 m の方形縦板組、下段が直径約 0.75 m の大型の曲物と 0.45 m の曲物の 2 段で構築されており、掘形の深さは検出面から約 1.9 m 下(標高 22.3 m)である。上段の縦板と横棧は井戸が廃棄される際に抜き取られたものと考えられ、埋め戻された埋土の下層(下段の大型曲物検出面)に破材が散在していた。井戸枠を検出した面で、東西に断割り半裁し構築方法を確認した。掘形は検出面から 0.5 m 程度垂直に掘り下げ、以下をスリパチ状にする。最下段に拳大の河原石を 2 ~ 3 段敷き下段の曲物を据え、外側に河原石を曲物上端面まで詰める。この河原石は曲物の内側に導水し、濾過するためのものと考えられる。次に中段の

井戸 4



井戸 7



- 1 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥、φ5~10cm礫混多い
- 2 10YR5/2灰黄褐色粘土、マンガン粒混
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘土、10YR5/2灰黄褐色粘土混
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色粘土、10YR5/2灰黄褐色粘土ブロック混
- 5 10YR4/2灰黄褐色粘土、10YR4/4褐色粘土ブロック混
- 6 10YR4/4褐色粘土
- 7 10YR4/4褐色粘土、マンガン粒混多い
- 8 10YR4/2~4/6灰黄褐色~褐色粘土
- 9 10YR4/2灰黄褐色粘土
- 10 10YR4/4褐色粘土、灰色粘土ブロック混
- 11 10YR4/4褐色粘土、灰色粘土ブロック混、φ5~10cm礫混多い
- 12 10YR4/4褐色粘土、灰色粘土ブロック混、φ5~15cm礫混多い
- 13 10YR3/3暗褐色粘土、マンガン粒混多い (地山)
- 14 10YR3/3暗褐粗砂礫、φ1~10cm、砂泥混 (地山)
- 15 10YR3/4暗褐粗砂礫、φ1~15cm (地山)

- 1 10YR4/3~5/3にぶい黄褐色砂泥、φ~6cm礫混
- 2 7.5YR4/3~4/4褐色砂泥
- 3 10YR4/2灰黄褐色砂泥、φ~6cm礫混
- 4 4/2~4/3にぶい黄褐色砂泥、φ~6cm礫混
- 5 7.5YR4/3~4/4褐色砂泥、褐灰色粘土混
- 6 10YR6/1~5/1褐灰色粘土
- 7 10YR4/4褐色砂泥、φ~8cm礫混
- 8 10YR5/1褐灰色粘土、φ~6cm礫混
- 9 5YR5/1~4/1灰色粘土
- 10 5Y5/1灰色粘土
- 11 2.5YR5/1黄灰色粘土、φ3~5cm多い
- 12 10YR4/2灰黄褐色砂泥~粘土、φ2~10cm礫混
- 13 5YR5/1灰色粘土φ3~5cm礫混
- 14 10YR6/2灰黄褐色泥砂、φ2~5cm礫混
- 15 10YR5/4にぶい黄褐色砂礫、φ3~15cm礫多い
- 16 10YR3/3暗褐色粘土 (地山)
- 17 10YR3/3暗褐色粗砂礫、φ1~3cm (地山)
- 18 10YR3/4暗褐色粗砂礫、φ1~10cm (地山)

図 29 2区井戸4・7実測図(1:50)

大型曲物を据え、掘形を曲物上端付近まで埋め戻し、再度上段の方形縦板組井筒の内法まで河原石を敷き詰める。さらに縦板組井筒を、その上に設置し掘形を埋め戻す。井筒が3重構造で、特に中段に直径約0.75 m、高さ約0.55 mの曲物を使用する例は珍しい。この曲物は、外面に9 cm幅の板で籬状のリングを上中下3段に嵌めている。籬と曲物の間には、籬とほぼ同じ幅の板を縦に4枚約90°間隔に挟み補強している。板材は上段の板縦と中段の曲物がヒノキ、下段の曲物がヒノキ科である。井戸枠内の埋土から、9世紀前半頃の土師器皿・杯、須恵器杯・横瓶が出土した(図33)。

井戸7(図29、図版7)調査区中央で検出した。一辺約2.8 mの隅丸方形の掘形で、井戸枠は掘形中央やや南東寄りに、幅約1.0 mの方形縦板組で構築されている。井戸枠は検出面から約0.8 m下から残っており、井戸底は同じく検出面から約2.55 m下(標高21.5 m)である。掘形は検出面からほぼ垂直に約2.0 m掘り、以下をスリバチ状に約0.6 m掘り下げる。掘形の底に直径約0.4 m、高さ約0.2 mの曲物を据え水溜めとしている。井戸枠は幅の揃わない縦板5枚程度を縁を重ねて組み、長さ約0.95 mの角材で横棧と四隅の立棧を組み合わせて構築する。縦板は約1.2 m残存していたが、腐食が進み取り上げられなかった。木材は縦板がスギ、縦棧・横棧はヒノキ科である。出土遺物は少なかったが、9世紀前半頃の須恵器の瓶と鉢がある(図34)。

土坑5 調査区中央部で検出した。直径約2.5 m、深さ約0.25 mであるが、南半をコンクリート基礎により攪乱されている。埋土に少量の炭・焼土などが混入し、底部から土師器、須恵器、緑釉陶器などが出土して、また銭貨5枚程が錆付き塊となって出土している。埋土の状況などから、小規模な廃棄土坑と考えられる。9世紀後半の遺物である(図37)。

溝101 調査区北東部の北壁から南東方向に約4 m程度の長さで検出した。幅約0.6 m、深さは最も深い北壁付近で約0.1 mある。埋土は2.5Y5/2 灰黄褐色砂泥のほぼ単一層である。埋土中

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
縄文時代	石鏃		石鏃1点		
古墳時代	土師器、須恵器		土師器3点、須恵器1点		
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦、軒瓦、金属製品、銭貨、木製品		土師器15点、須恵器24点、灰釉陶器3点、緑釉陶器7点、軒瓦3点、銭貨11点、木製品4点		
中世以降	土師器、焼締陶器、瓦器、施釉陶器、輸入陶磁器、銭貨		土師器5点、瓦器4点、銭貨1点		
江戸時代以降	土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付				
合計		46箱	82点(4箱)	39箱	3箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より4箱多くなっている。

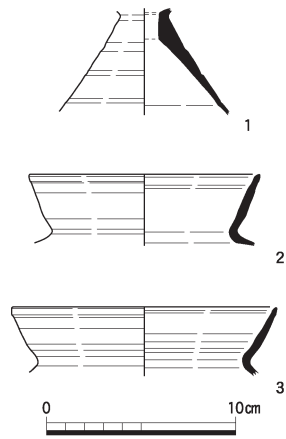


図 30 1区落込み 257 出土
土器実測図 (1 : 4)

に遺物は検出しなかった。

土坑 102 調査区北東部の東壁北寄りで検出した、南北長約 4 m、東西幅約 1.5 m の不定形の土坑である。深さは最も深い所で約 0.15 m である。埋土は前述の溝 101 と同じ 2.5Y5/2 灰黄褐色砂泥のほぼ単一層で、本来は溝 101 と一体の遺構であったものが、後世の耕作により削平され分離したものと推定される。埋土から、縄文時代の石鏃 1 点 (図 42) と弥生時代から古墳時代頃と考えられる土器の微細片が含まれていた。溝 101 と土坑 102 のどちらも弥生時代から古墳時代である。

註

- 1) 京都市文化市民局文化財保護課が 2006 年 6 月に行った試掘調査で、当該位置からの柱穴状の遺構から須恵器壺が埋納された状態で出土している (表 1 調査 11 C)。

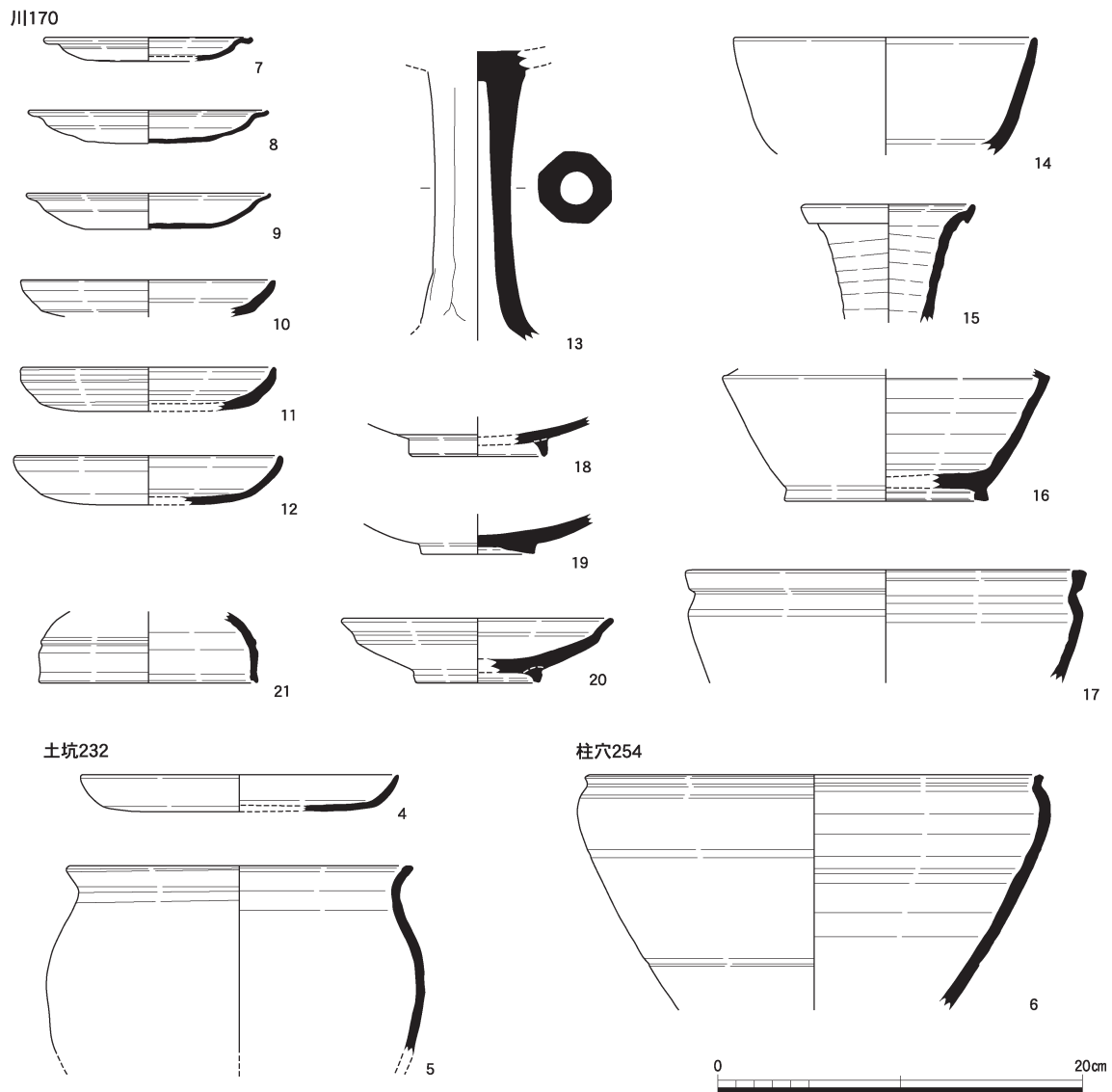


図 31 1区土坑 232・柱穴 254・川 170 出土土器実測図（1：4）

4 . 遺 物

（1）遺物の概要

縄文時代から近代にわたる各時代の遺物が整理箱で 42 箱出土した。その内訳は土器類、瓦類、金属製品、銭貨、石製品、木製品、自然遺物などである。土器類の出土が最も多く、その他のものは少ない。

縄文時代から古墳時代の遺物には、1区落込み 257 から出土した土師器、2区土坑 102 から出土した土器微細片と石鏃がある。

平安時代の遺物はほとんどが前期に属する。内訳は、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、銭貨、木製品、自然遺物などの多種類にわたる。

鎌倉時代から室町時代の遺物は少量である。土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、

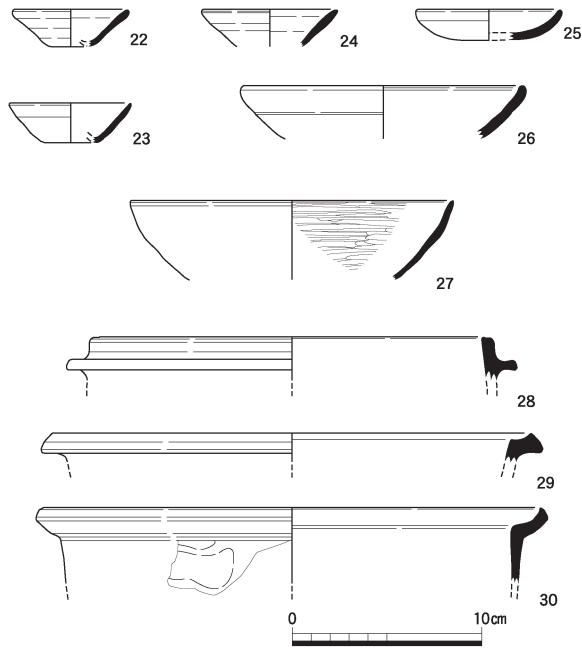


図 32 1区整地層出土土器実測図(1:4)

どであるが、多くが小片で、図示できるものは少ない。

落込み 257 出土土器(図 30)土師器の器台と甕があるが、大半は甕である。古墳時代前期のものである。

器台(1)は体部との接合部から脚部の途中まで高さ 5.6 cmが残る。脚部は下端部に近くなるほど薄く、八の字状に広がる。脚上端の接合部は直径 1.6 cmの中空である。表面は磨滅がはげしく調整は不明である。胎土は淡橙色である。甕(2・3)は2が口径 12.2 cm、3が口径 14.0 cmである。体部から「く」の字状に屈曲し、口縁部はやや外反して直線的に立ち上がる。内外面ともナデ調整する。胎土は浅黄橙色で、焼成はやや軟質である。

土坑 232 出土土器(図 31)出土土器は土師器、黒色土器があり、大半が小片である。そのなかの土師器を図示した。

土師器は皿・甕がある。皿(4)は口径 17.5 cm、器高 2.0 cmである。体部はゆるやかに立ち上がり、内湾気味に口縁部に至る。胎土はやや粗く白色小粒を含み、橙～にぶい橙色である。焼成は軟質である。全体に磨滅がはげしいが、外面にはヘラケズリが確認できる。京都¹⁾期に属する。甕(5)は口径 19.0 cmである。体部から頸部へ内湾しながら、なだらかに外反して立ち上がり、口縁部に至る。端部は少し肥厚する。胎土はやや白色小粒を含み、橙色である。表面は磨滅がはげしく調整は不明である。

柱穴 254 出土土器(図 31)柱穴群から出土した遺物は小片のため、図示できるものはほとんどないが、柱穴 254 から須恵器鉢が出土している。

須恵器鉢(6)は口径は 25.1 cmである。短く立ち上がる口縁部がもつ。胎土は白色小粒が目立ち、灰白色である。焼成は軟質である。京都 期古～中段階に属し、平安時代前期に比定できる。

川 170 出土土器(図 31、図版 9)土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器がある。その他に輸入

石製品などがある。

江戸時代以降の遺物は、土師器、肥前染付磁器、施釉陶器、木製品、金属製品、石製品などが少量ある。

出土遺物は多くが小片であるが、それらのなかで比較的残存部の良好なものを図示し、土器類については1区と2区に分けて記述する。

(2) 土器類

1区出土土器類

1区からの出土土器類は、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、輸入陶磁器、施釉陶器、焼締陶器、染付磁器な

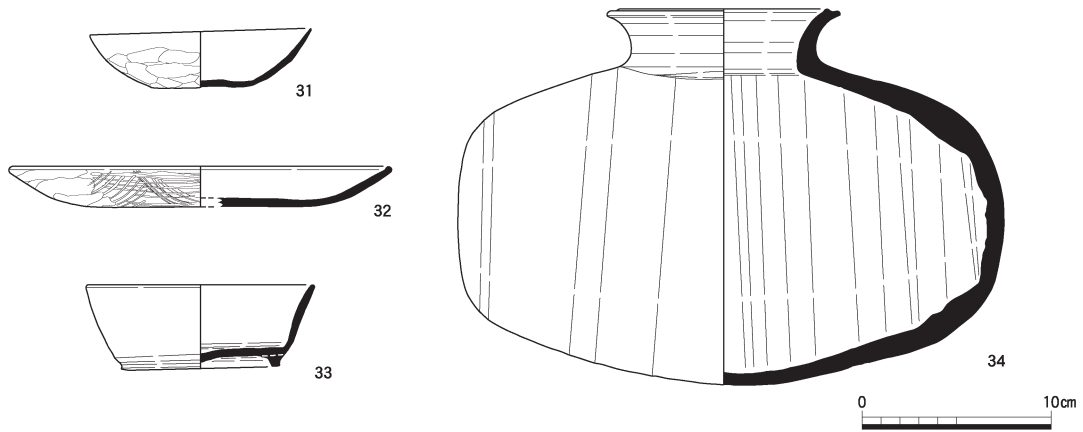


図 33 2区井戸4出土土器実測図(1:4)

磁器、黒色土器、焼締陶器などがある。出土した土器類のほとんどは、表面や断面の磨滅がはげしく小片のものが多くことから、上流から流されてきたものと考えられ、図示できるものは多くない。川 170 下層からは 9 世紀後半に、上層からは 12 世紀代に比定できる遺物が出土した。

土師器は椀・皿・高杯がある。皿(7~9)は、7が口径 5.0 cm、8が口径 13.2 cm、器高 1.8 cm、9が口径 13.4 cm、器高 1.9 cmである。体部上端から口縁が外反し、口縁部上端がわずかに丸く突起して収まる。胎土は7が灰白色、その他がにぶい橙色で、焼成はやや軟質である。内面はナデ調整、外面はナデとオサエ調整である。京都 期中~新段階に属する。皿(10・11)は、10が口径 14.0 cm、11が口径 14.0 cm、器高 2.4 cmである。体部から口縁部に内湾して立ち上がり、口縁端面が三角形状を呈する。胎土は10が浅黄色橙色、11がにぶい橙色で、焼成はやや軟質である。口縁部外面は2段のナデ調整である。皿(12)は口径 14.8 cm、器高 2.7 cmあり、口縁部が内湾して立ち上がり、端部はわずかに肥厚し丸く収まる。胎土はにぶい黄橙色で、焼成はやや軟質である。10~12は京都 期中~新段階に属する。高杯(13)は脚部である。残存高は 15.9 cmで、断面は最小径 4.9 cmであり、ヘラケズリで八角形に成形される。胎土はにぶい橙色で、焼成はやや軟質である。

須恵器には杯・壺・鉢がある。杯(14)は口径 16.6 cmである。体部から口縁部へ内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。端部は丸く収める。胎土は灰色で、焼成は硬質である。京都 期に属する。壺(15)は口径 9.5 cm、残存高 6.5 cmの頸部である。頸部から外反し、口縁部にかけては折れ曲がるように外に開く。胎土は灰白色で、焼成は良好である。壺(16)は底部径 11.2 cm、肩部最大径 17.9 cm、残存高 6.8 cmである。角張る肩部とコの字状の高台が付く。胎土は灰色~灰白色で、焼成は硬質である。鉢(17)は口径 22.0 cmである。短く立ち上がる口縁部をもつ。端部の器壁は肥厚し、上方を平らにする。胎土は灰白色で、焼成はやや軟質である。15~17は京都 期に属する。杯蓋(21)は口径 12.0 cmである。混入品であるが比較的残存状態がよいので図示した。肩部に明瞭な稜線がつき、端部はわずかに外反する。時期は 6 世紀初頭頃であろう。

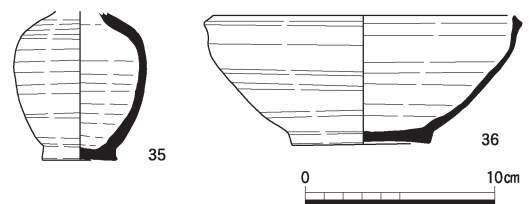


図 34 2区井戸7出土土器実測図(1:4)

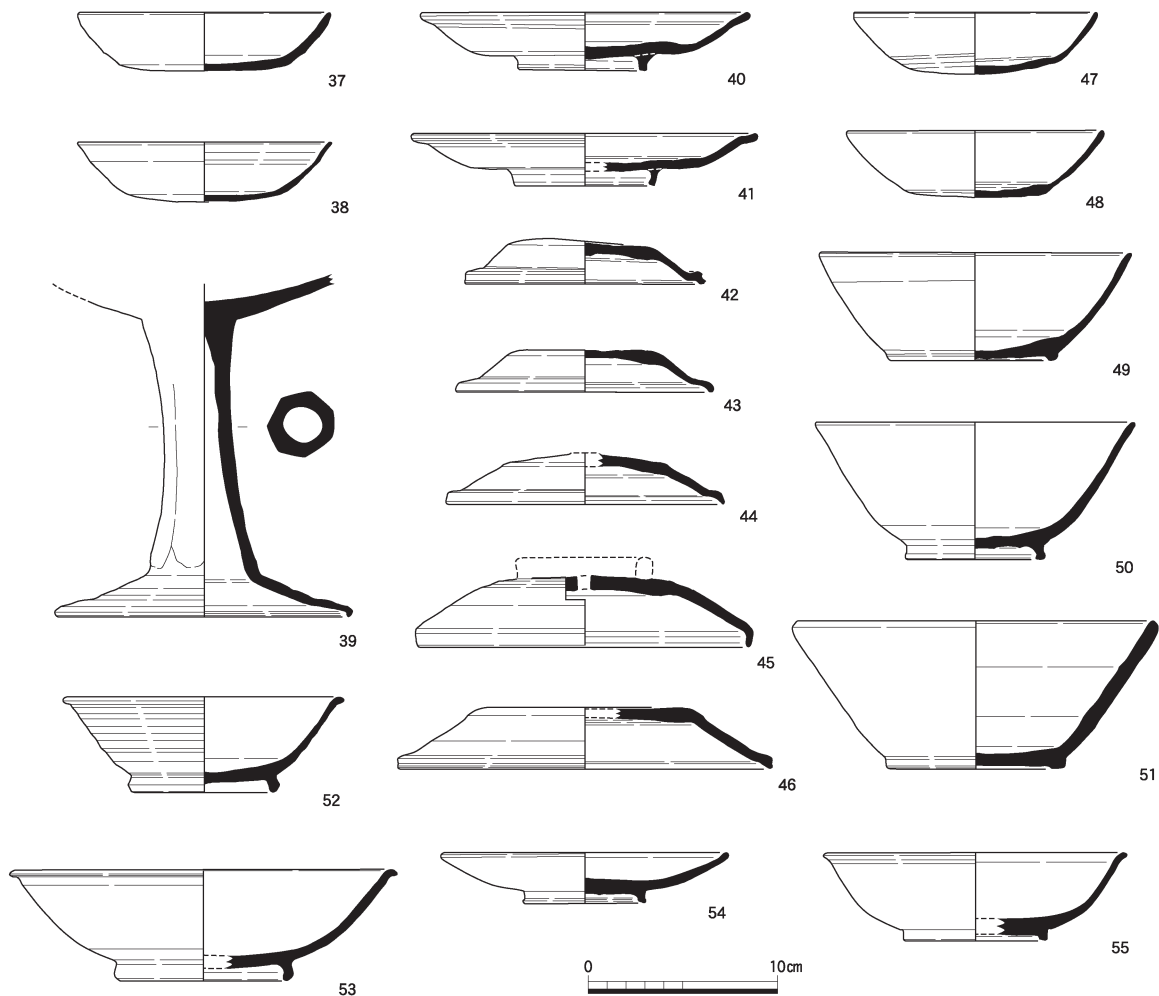


図 35 2区溝6出土土器実測図(1:4)

灰釉陶器には皿がある。皿(18)は底部径7.6cmである。底部には貼付けのいわゆる三日月高台が付く。胎土は灰白色で、焼成は硬質である。東海系であろう。

緑釉陶器には皿がある。皿(19)は高台部径6.2cmで、底部内面にはヘラミガキが施され、蛇の目高台である。釉がわずかに残り、胎土は灰黄色で、焼成は硬質である。山城系であろう。皿(20)は全形がわかり、口径14.9cm、器高3.5cmである。体部に稜がつき、貼付け高台である。釉は高台の端部を除きほぼ全面に施され、浅黄色を呈する。胎土は淡黄色、焼成は軟質である。東海系であろう。灰釉陶器・緑釉陶器は京都 期に属する。

整地層出土土器(図32)土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器などがある。小片が多く、図示できたのは土師器と瓦器のみである。

土師器は皿がある。皿(22~24)はいわゆる「ヘソ皿」である。22は口径6.2cm、器高1.9cm、23は口径6.5cm、器高2.0cm、24は口径7.2cmである。胎土は灰白色で、焼成はやや軟質である。京都 期に属する。整地層第1層から出土した。皿(25)は口径7.8cm、器高1.6cmである。体部から口縁部は内湾し端部は丸く収める。胎土は灰白色で、焼成はやや軟質である。京都 期に属する。整地層第3層から出土した。皿(26)は口径15.0cmである。体部から口縁部にかけて

内湾し、端部はわずかに肥厚して丸く収まる。内面はナデ調整、口縁部外面上部のみナデ調整である。胎土は褐灰～灰白色で、焼成は比較的良好である。京都 期に属する。整地層第3層から出土した。

瓦器には椀・羽釜・鍋がある。椀(27)は口縁部残存1/6程度の破片であり、復元口径は17.0 cmとした。内面に丁寧なヘラミガキを施す。胎土は灰白色で、焼成は比較的良好である。京都 期に属する。整地層第3層から出土した。羽釜(28)は口径21.3 cmで、口縁端部から少し下に鑿がつく。胎土は黒褐色で、焼成は良好である。鍋(29)は口径26.5 cmで、受部は「く」の字形を呈する。胎土は灰白色と黒褐色の中間で、焼成は良好である。鍋(30)は口径27.0 cmで、受部は「く」の字形を呈する。胎土は灰白色で、焼成はやや軟質である。28～30は京都 期に属する。28・29は整地層第3層から、30は整地層第2層から出土した。

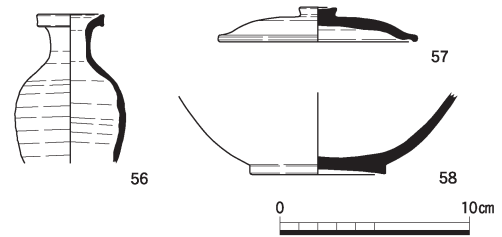


図 36 2区溝3出土土器実測図(1:4)

2区出土土器類

2区からの出土土器類は、平安時代前期のものがほとんどで、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などである。その他には近世の耕作溝から、肥前磁器や京・信楽系の陶器、混入した中世の土師器、瓦器、輸入磁器の小片があるが、図示できるものはない。

井戸4出土土器(図33、図版9)土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などがあるが小片が主で、図示できるものは少ない。9世紀前半代の遺物である。

土師器には椀と皿がある。椀(31)は口径11.7 cm、器高3.1 cmで、胎土はやや粗く砂粒を含む。焼成はやや軟質で、淡赤橙色を呈する。外面下半にケズリ、上半と内面はナデが残るが、表面の剥落が多く不明な部分が多い。皿(32)は口径20.2 cm、器高2.1 cmである。胎土は灰白～橙色で、焼成は比較的良好である。ヘラケズリのち、粗いミガキ痕が残る。

須恵器には杯・横瓶がある。杯(33)は口径12.1 cm、器高4.5 cmである。胎土は灰色で、焼成は良好である。横瓶(34)は、推定復元で口径12.2 cm、器高19.8 cm、幅28.8 cmである。胎土は灰白色で、焼成は良好であるが、火膨れが多く特に内面に目立つ。口縁部周辺と肩口に薄く灰釉が掛かる。

井戸7出土土器(図34、図版9)土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器などがある。井筒内、掘形とも小片が主体で出土量も少ない。9世紀中頃の遺物である。

図示した遺物はいずれも須恵器で、小壺(35)は口頸部を欠き、残存高7.8 cm、胴部最大径7.0 cm、底径3.9

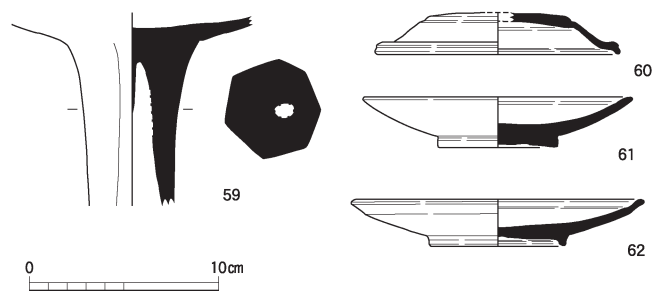


図 37 2区土坑5出土土器実測図(1:4)

cmである。焼成は良好で、胎土は暗灰色である。外面はナデ整形であるがロク口痕跡が残る。底部は糸切りである。小型の鉢(36)は口径16.8cm、器高6.8である。焼成が軟質であり瓦器と同様の胎土で、口縁部の外面約2.0cm程度が暗灰色、そのほかは灰白色を呈し、重ね焼きの痕跡をとどめている。体部内外面にロク口痕が残り、ナデは明瞭でない。底部は糸切りで、中央部がやや凹む。

溝6出土土器(図35、図版9~11)土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などがある。9世紀前半の遺物も混じるが、9世紀後半の遺物が主体である。

土師器は皿・杯・碗・高杯・甕類など器形が豊富であるが、小片が多く、図示できたものは杯と高杯のみである。杯(37・38)は、ほぼ同法量で、口径13.4cm、器高3.1~3.2cmである。表面が磨滅し調整などは不明である。胎土は灰白色と橙色で、一部は絞胎状になる。焼成はやや軟質である。高杯(39)は残存高18.0cm、杯部径15.7cmである。脚部はヘラケズリで断面7角形に成形され、杯と脚裾部は指オサエのちナデ調整される。胎土は浅黄橙色で、焼成は軟質である。

須恵器には皿・杯蓋・杯・鉢・瓶子・甕などがある。皿(40)は口径17.4cm、器高3.1cm、胎土は灰色で、焼成は硬質である。ロク口成形され口縁端部は丸く収める。皿(41)は口径18.3cm、器高2.8cmあり、胎土は灰白色で、焼成は硬質である。成形は40と同じである。内面底部が使用により磨滅し滑らかになっており、硯に転用された可能性がある。蓋(42~44・46)は口径12.7~14.1cm、器高は1.6~2.7cmで、胎土は比較的精良で、焼成も良好である。ロク口成形で、ナデ調整されるが、天井部は雑である。下端部は下方へ引出され、丸く収める。なお、43の天井部にわずかに墨書の痕跡がある。蓋(45)は天井部に輪高台状のつまみが剥落した痕があり、中央部に焼成前の径約0.6cmの穿孔がある。ロク口成形でナデ調整され、胎土は比較的精良で、焼成も良好で暗灰色を呈する。下端部は下方へ垂直に1cm程度引き出され「U」字状に収める。杯(47・48)は、47が口径12.9cm、器高3.3

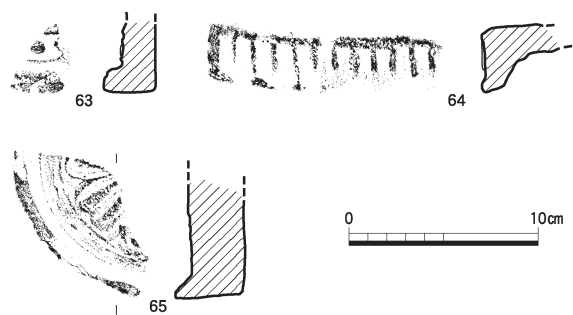


図38 出土軒瓦拓影・実測図(1:4)

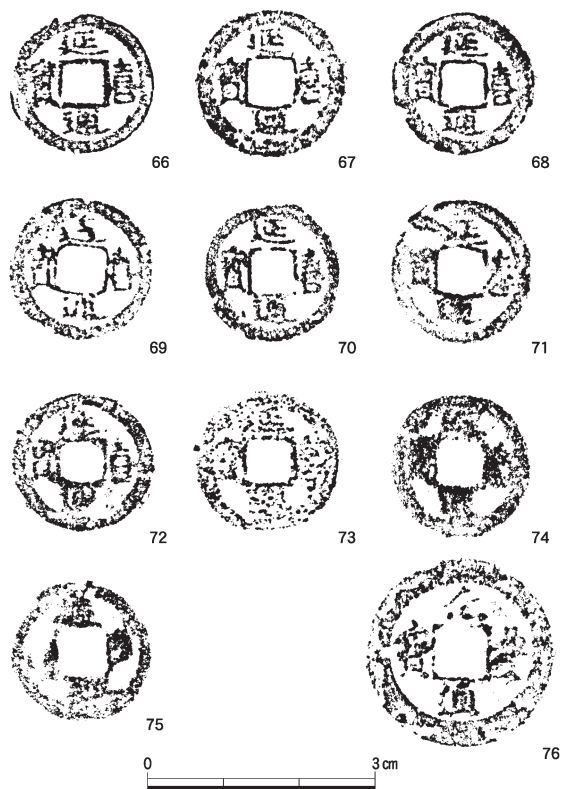


図39 1区出土銭貨拓影(1:1)

cm、48が口径13.6cm、器高3.6cmで、高台は付かない。いずれもロクロ成形で、焼成が軟質で表面調整などは不明である。鉢(49)は口径15.7～16.4cm、器高6.1cmで、体部は外に直線的に開き端部は丸く収める。低い輪高台が付く。胎土は比較的精良であるが、焼成は軟質で、灰白色を呈する。鉢(50)は口径16.9cm、器高7.2cmである。体部は内湾気味に立ち上がり、端部はわずかに外反する。鉢(51)は口径19.3cm、器高7.8cmで、器壁が比較的厚い。



図40 2区出土銭貨

灰釉陶器には椀がある。椀(52)は口径14.8cm、器高5.1cmで、体部外面にロクロ目が残り、口縁端部は強く外反する。胎土はやや粗く、白色砂粒が混じる。灰釉は口縁端部付近の内外面にわずかに残る。椀(53)は口径20.4cm、器高5.9cmである。内外面の底部付近を除いて灰釉が掛かり、いわゆる三日月高台の畳付と見込に重ね焼きの痕跡が残る。

表4 銭貨測定表

番号	直径 cm	重さ g	比重
66	1.85	2.1	8.15
67	1.95	3.1	8.26
68	1.85	2.8	8.45
69	1.90	2.2	8.38
70	1.85	2.7	8.25
71	1.90	2.6	10.70
72	1.85	2.1	9.43
73	1.90	3.4	9.43
74	1.90	2.7	9.49
75	1.85	3.2	10.70
76	2.45	3.1	—

※ 重さは少数点2位以下を四捨五入

緑釉陶器には皿と椀がある。いずれも山城産である。皿(54)は口径15.2cm、器高2.7cmで、やや外に開く浅い削出し高台を持つ。内面の口縁端部直下に浅い凹線が巡り、端部は丸く収める。淡黄緑色の釉が全面に薄く掛かる。椀(55)は口径16.0cm、器高4.6cmである。浅い削出し高台で、口縁端部はやや外反する。ややムラのある釉が全面に掛かる。

溝3出土土器(図36、図版11)土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などがある。出土した遺物は小片が多く、特に土師器類は全体形のわかるものがない。

図示した遺物は須恵器の瓶子・蓋、緑釉陶器の椀である。瓶子(56)は底部が欠損する小壺で、残存高7.8cmである。胎土は灰白色で、焼成は良好である。蓋(57)は杯蓋で口径10.5cm、器高

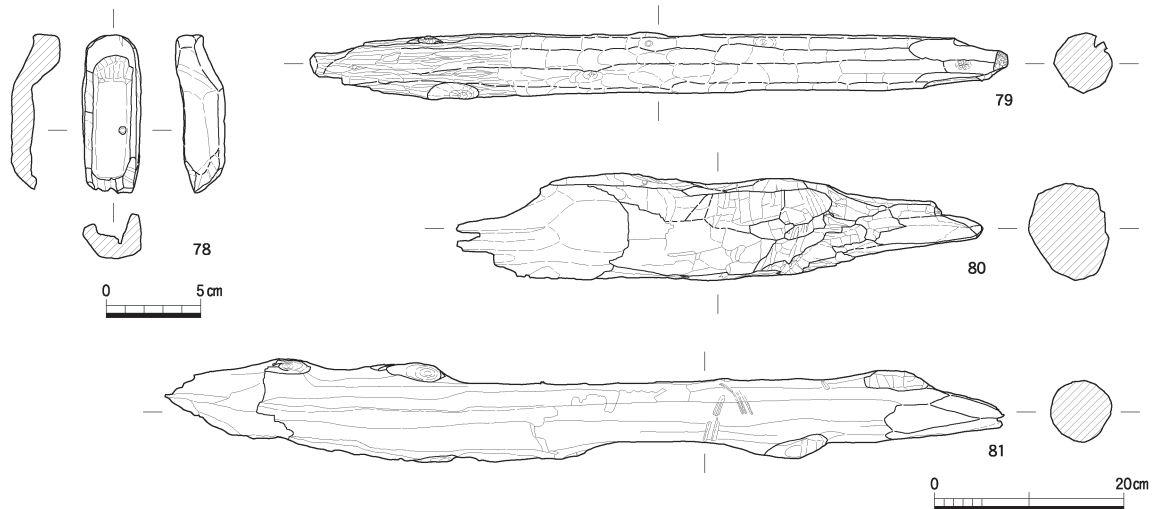


図41 1区出土木製品実測図(1:4、1:8)

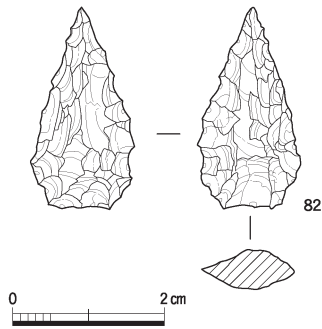


図 42 2区出土石鏃実測図
(1:1)

1.8 cmである。天井部の調整は粗く、つまみ周辺に薄く灰が被る。焼成はやや軟質で、灰色の胎土である。

緑釉陶器椀(58)は中央がやや凹む平底で、胎土は灰白色の須恵質である。釉は薄く白濁し、剥離が進んでいる。9世紀後半代の遺物である。

土坑5出土遺物(図37、図版11)土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などがある。

土師器高杯(59)は脚部と杯の一部が出土した。脚は断面7角形に削り出されている。

須恵器蓋(60)は口径13.0 cm、器高2.2 cmで、天井部のケズリとナデ調整が粗い。端部は斜下方に引き出され、外面に稜を作る。

緑釉陶器は、蛇の目高台と貼付け高台で外面口縁端部近くに稜を作る皿がある。皿(61)は口径14.2 cm、器高2.7 cmで、蛇の目高台である。胎土は灰白色で須恵質である。口縁端部内面に凹線が巡る。釉は緑黄色で全面に施釉される。内面が使用により釉も磨耗している。皿(62)は口径15.5 cm、器高2.5 cmあり、貼付け高台で、外面口縁端部近くに稜を作る。釉はムラのある薄い黄緑色で、全面施釉される。

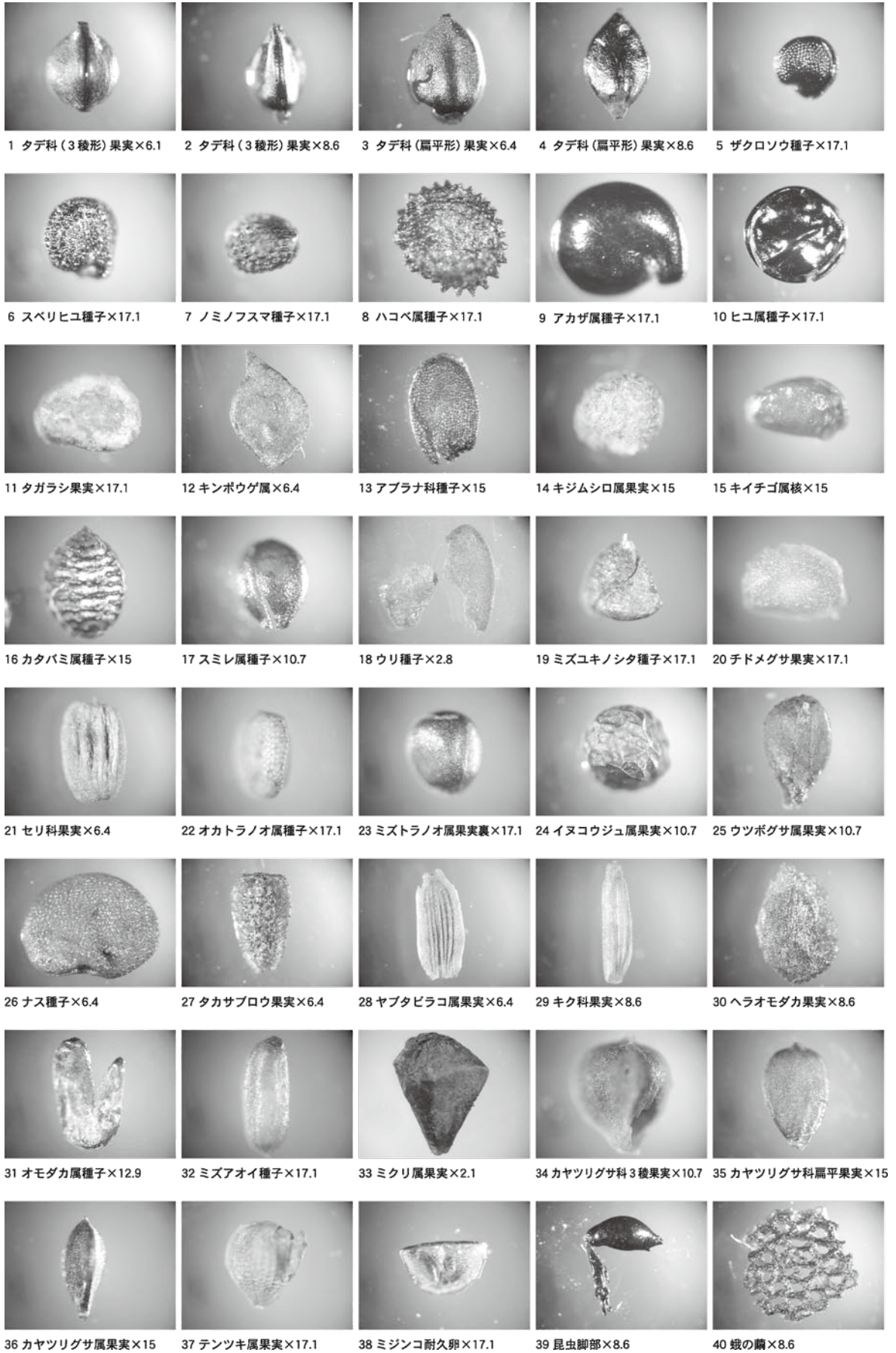


図 43 川 170 検出自然遺物

表5 川170 検出自然遺物一覧表

1	ミゾソバ	果実	タデ	7	水辺
2	タデ科 (3稜形)	果実	タデ	93	水辺・湿地・道端
3	タデ科 (扁平形)	果実	タデ	52	水辺・湿地・道端
4	ザクロソウ	種子	ザクロソウ	6	道端・畑
5	スベリヒユ	種子	スベリヒユ	2	畑・道端
6	ノミノフスマ	種子	ナデシコ	83	水田・畑・野原
7	ハコベ属	種子	ナデシコ	2	道端・畑
8	アカザ属	種子	アカザ	1	道端・荒地
9	ヒユ属	種子	ヒユ	6	道端
10	タガラシ	果実	キンボウゲ	51	水田
11	キンボウゲ属	果実	キンボウゲ	17	山野・道端
12	アブラナ科	種子	アブラナ	2	水田・水辺・道端
13	キジムシロ属	果実	バラ	3	野原・河原
14	キイチゴ属	核	バラ	1	山野・道端
15	カタバミ属	種子	カタバミ	9	道端・畑
16	コミカンソウ属	種子	トウダイグサ	3	道端・畑
17	エノキグサ	種子	トウダイグサ	5	道端・畑
18	スマレ属	種子	スマレ	4	道端・山野
19	ウリ	種子	ウリ	3	栽培
20	ミズユキノシタ	種子	アカバナ	4	池・沼の岸
21	チドメグサ	果実	セリ	34	道端・庭・野原
22	セリ科	果実	セリ	18	湿地・山野
23	オカトラノオ属	種子	サクラソウ	5	湿地・山野
24	ミズトラノオ	果実	シソ	5	湿地
25	シソ属	果実	シソ	255	道端
26	イヌコウジュ属	果実	シソ	14	山野
27	シロネ属	果実	シソ	118	水辺
28	ウツボグサ属	果実	シソ	4	山野
29	ナス	種子	ナス	16	栽培
30	ナス科	種子	ナス	9	山野・道端
31	タカサブロウ	果実	キク	7	湿地・水田
32	ヤブタバコ属	果実	キク	4	水田・野原
33	メナモミ属	果実	キク	2	山野
34	キク科	果実	キク	2	野原・湿地
35	ハラオモダカ	果実	オモダカ	190	水田・溝
36	オモダカ属	果実	オモダカ	51	水田・溝
37	オモダカ属	種子	オモダカ	70	水田・溝
38	コナギ	種子	ミズアオイ	5	水田
39	ミズアオイ	種子	ミズアオイ	12	水田・沼
40	イボクサ	種子	ツユクサ	371	水田・沼
41	イネ科	穎	イネ	42	道端・野原
42	ミクリ属	果実	ミクリ	17	池・沼・溝
43	カヤツリグサ科 (3稜形)	果実	カヤツリグサ	34	湿地・山野
44	カヤツリグサ科 (扁平形)	果実	カヤツリグサ	537	湿地・山野
45	カヤツリグサ属	果実	カヤツリグサ	44	水田・湿地・道端
46	ホタルイ属	果実	カヤツリグサ	80	水田・溝・湿地
47	テンツキ属	果実	カヤツリグサ	2	湿地
48	ハリイ属	果実	カヤツリグサ	3	湿地
49	ミジンコ	耐久卵		1	水湿生
50	昆虫	頭部・上翅・胸腹・脚		38	
51	トゲ			10	
52	蛾の繭			5	

※ 土サンプル約9リットルを4・2・1・0.5mmの篩を使用して選別し、実体顕微鏡で同定した。

(3) 瓦類 (図 38、図版 11)

瓦類の出土量は少量であった。種類は軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦などがある。大半が磨滅がはげしい。平安時代から近世のものがあるが、ほとんどが平安時代に属するものである。これらのなかから比較的良好な軒瓦を図示した。

1区からは軒瓦が3点出土し、それらのうち残存状態の良い軒瓦2点を図示した。軒丸瓦(63)は外区のみの小片である。界線と圏線間の外区内縁に珠文があり、珠文は比較的大きく間隔は狭い。胎土は小粒を少量含み密である。焼成はやや軟質である。室町時代の整地層から出土した。小片のため特定できないが、平安時代後期から鎌倉時代の巴文軒丸瓦か。剣頭文軒平瓦(64)は剣頭文を6個確認できる。胎土は白色小粒が目立つ。焼成はやや軟質である。顎部裏面は粘土を補足し、ナデでシワを消していることから、折曲げ式であろう。室町時代の整地層から出土した。時期は平安時代後期から鎌倉時代であろう。

2区から出土した軒瓦は1点のみである。軒丸瓦(65)は小片である。復弁の蓮華文、外区の内外縁に圏線が巡り、珠文は痕跡的である。焼成は軟質で、胎土に砂粒が多く混じる。溝6から出土した。時期は平安時代前期であろう。

(4) 銭貨 (図 39・40、図版 11、表 4)

銭貨のうち、66～73は延喜通寶(初鑄907年・延喜7年)である。74・75は不明瞭であるが、延喜通寶の可能性が高い。66～75は観察・比重などから66～70の5枚、72～74の3枚、71・75の2枚と3群に分けることができる。1区川170下層(調査区南西部壁際)から10枚まとまって出土した。元豊通寶(76)は1区室町時代整地層から出土した(元豊=1078～1085年、

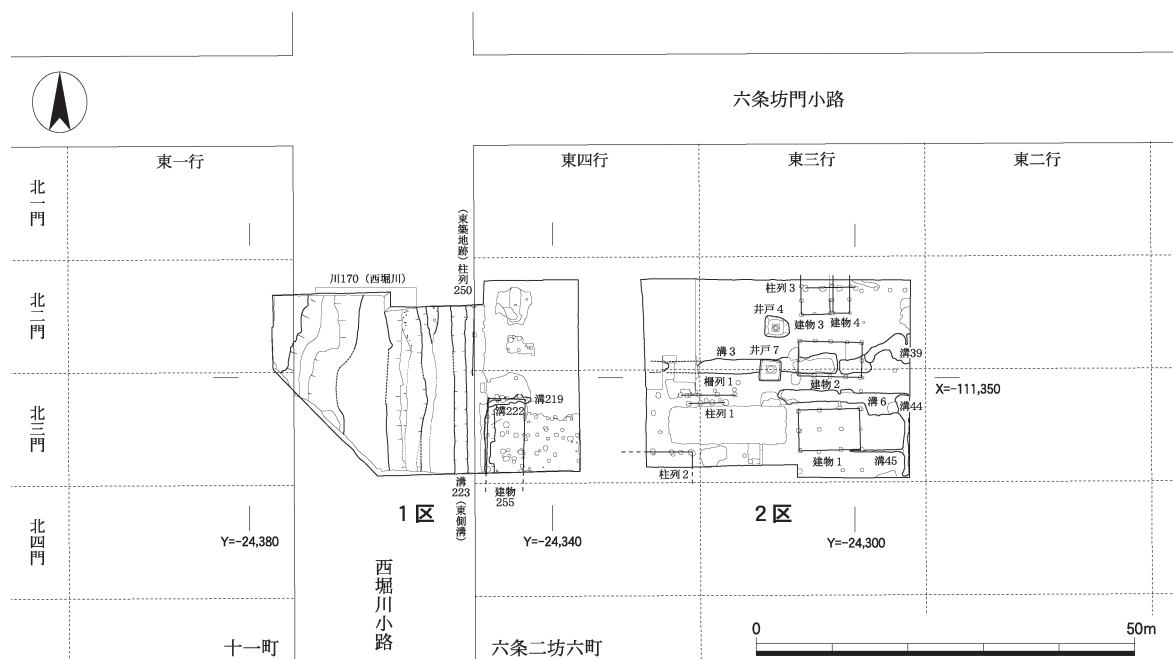


図 44 四行八門内における調査区 (1 : 1,000)

北宋)。なお個々の直径・重さなどは表4にまとめた。銭貨(77)は、2区土坑5から5枚以上が重なって出土した。表面は錆による風化で磨滅し脆弱になっているため、個々の貨幣を同定できないが、文字の読める表面の1枚は、皇朝十二銭の「隆平通寶」(初鑄796年=延暦15年)である。ただ、重なるほかの銭貨は明らかに口径が小さく、皇朝十二銭のうちでも時代の下る銭貨の可能性が高い。

(5) その他の出土遺物

杭・曲物などの木製品、鍋・砥石・硯などの石製品、釘などの金属製品、骨・角・種子類などの自然遺物がある。それらのうち残存状態の良好なものを図示した。

木製品(図41)小舟、杭がある。ともに1区川170から出土した。78は舟の小型模型と考える。上面形は隅丸方形で、長径8.3cm、短径3.1cm、高さ2.6cmである。内側は隅丸方形にくり貫ぬかれ、長径6.5cm、短径2.0cm、深さ1.3cmある。中央の外寄りには直径0.4cm、深さ0.4cmの小穴がある。帆をさす穴であろう。外側は、船首と思われる部分が外反して高さ1.2cm程度面取りされる。船尾と思われる部分は、内湾して高さ1.5cm程度面取りされる。樹種はヒノキ科である。杭は3本(79~81)図示した。79は残存長73.7cm、太さが最大6.6cmである。先端は4面の面取りが施されて尖り、胴部は幅1.0~2.5cmの面取りがなされている。焦げ跡が上部の約20cmに集中して残る。80は残存長55.6cm、太さが最大11.0cmである。全体に面取りがあり、先端は5面の面取りが施されて尖る。焦げ跡が所々にあり、先端部は多く残る。81は残存長88.7cm、太さが最大8.4cmである。先端は5面の面取りが施され尖る。焦げ跡が先端の片面に、長さ約30cm、幅5.0cm前後残り、胴体には所々にある。また先端から26.0~32.0cmの位置に、0.2~0.6cm、長さ2.3~5.0cmの浅い凹みが交差するようにある。これらは縄の跡の可能性はある。79・80は川170西岸に打ち込まれていたものである。79~81の樹種はヒノキ科である。

石製品(図42、図版11)石鏃(82)がある。長さ2.6cm、幅1.3cmの無茎、平基形である。完形品である。2区土坑102から出土したが、他に弥生時代終末から古墳時代前期頃と思われる土器の微細片があり、石鏃は遊離資料と考えられる。縄文時代のものである。

自然遺物(図43、表5)自然遺物には1区川170(西堀川)下層から出土した動物遺体の骨や貝類がある。骨は牛もしくは馬とみられ、歯も含まれる。鹿の角とみられるものもある。貝類にはイシガイ・タニシ・カワニナなどが確認できる。

川170(西堀川)からは多くの種子などが検出された。水辺植物としてミゾソバ・タデ科・シロネ属、水田・溝などの雑草としてタガラシ・キンポウゲ属・オモダカ科・コナギ・イボクサ・カヤツリグサ科、畑・道端に見られる人里植物としてナデシコ科・チドメグサ属・シソ属がみられ、この当時の川170は水深の浅いあまり流速のない滞水したような水生環境であるが、ミジンコ耐久卵があることから、たまに水が干上がったか水質の悪化したことが考えられる。またシソ科が多く出土していて、2007年の三町調査³⁾の池の埋土サンプルからも同様にシソ科が多く出土しているので、よく似た状況を想定できる。

表6 西堀川小路検出一覧表

番号	遺跡名	調査方法	所在地	調査期間	調査概要	文献
1	北辺二坊	試掘	北区大將軍川端町27	1984.07.23	地表下1.6mで紙屋川の堆積。	1
2	三条二坊八・九町	立会	中京区西ノ京東中合町56～銅駝町56	1984.02.13～03.23	西堀川小路流路。地表下0.1mで灰褐色砂礫、暗灰色泥土の埋土。1.4mでも底には達しない。	2
3	三条一・二坊	立会	中京区西ノ京東中合町～西ノ京東月光町	1984.07.02～11.29	西堀川小路西側溝・西堀川検出。	3
4	三条二坊十町	発掘	中京区西ノ京原町64	1982.06.17～07.10	西堀川小路の堀川と、その両側の路面および西側溝。川幅約6m、深さ約1m、両岸と東側底部には杭跡が並ぶ。埋土は暗灰色や濃褐色系の泥土層と褐色の砂礫が交互に堆積。10世紀後半に埋没。西側路面幅は約6m。西側溝は深さ約1m。	4
5	四条二坊	立会	中京区壬生西大竹町他	1981.12.17～1982.03.31	西堀川流路埋土は、上層が褐色系の砂礫層、下層は灰色系の泥砂層となる。道祖川に流れるバイパスあり。	5
6	四条二坊十一・十二町	立会	右京区西院東淳和院町5-4他	1997.02.21～02.28	西堀川小路の西側溝、幅1.2m、深さ0.23m。西築地基底部、幅3m。築地内溝、幅1m、深さ0.43m。	6
7	四条二坊十二町	試掘	右京区西院東淳和院町5-4他	1996.9.18	西堀川小路西築地の内溝。西堀川は西側に大きく氾濫している。	7
8	五条二坊五町	発掘	中京区壬生西櫓町8-9	1980.10.15～10.31	西堀川は、幅14.8m、深さ0.6～0.8m、浸食により広がる、当初は約6m。9世紀後半には機能、12世紀前半には埋没。	8
9	五条二坊十一町	立会	中京区壬生西櫓町10	1991.09.21～09.26	地表下0.63m以下、平安前期から後期の流路堆積。	9
10	五条二坊、六条二坊	立会	右京区西院高山町～中京区壬生東高田町地先	1981.06.18～1982.03.31	西堀川小路の東側溝、幅1.3m、深さ0.3m。西堀川幅15.6m。川の東肩に角杭を打つ。西堀川は東西方向に溢れている。平安京造営以前の旧流路上に川が造成されている。	10
11	六条二坊七町	立会	中京区壬生東高田町4-1	1989.09.18	地表下0.74m以下、平安時代中期の流れ堆積。	11
12	七条二坊七町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪40	1983.04.20～05.14	西堀川小路の側溝、東築地。平安後期～近世にかけて幾重にも堆積する西堀川の旧河川。	12
13	七条二坊十町	試掘	下京区西七条西石ヶ坪町38-1.2	1993.10.13	地表下0.8mで西堀川小路の西側溝。	13
14	七条二坊	試掘	下京区西七条西石ヶ坪町40	1982.03.16	西堀川とみられる東側への大きな落込み。	14
15	八条二・三坊	立会	下京区七条御所ノ内北町	1981.09.18～10.28	推定西堀川小路の西側には、灰色系泥土を埋土とする大規模な流路が広がる。	15
16	九条二坊九町	試掘	下京区七条御所ノ内南町98-1他	1994.07.11	地表下1.2mで西堀川小路の路面、側溝、西堀川を検出。	16
17	六条二坊六町	発掘	下京区西七条御前町～右京区西院南高田町	2006.03.27～08.03	西堀川小路の東築地・東側溝・東道路・西堀川を検出。西堀川は、幅14～16m、深さ約1.1m、西側に大きく広がる。9世紀後半には機能、12世紀代には埋没。	本調査

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうろくじょうにぼうろく・じゅういちちょうあと							
書名	平安京右京六条二坊六・十一町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2007-3							
編著者名	小檜山一良・布川豊治・能芝 勉・尾藤徳行							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2007年8月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 ろくじょうにぼう 六条二坊 ろくちょう・じゅういちちょう 六町・十一町、 にしほりかわこうじあと 西堀川小路跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 にしななじょうおんまえだちょう 西七条御前田町 うきょうくさいいん ～右京区西院 みなみたかだちょうちない 南高田町地内	26100		35度 00分 38秒	135度 44分 22秒	2007年3月 27日～2007 年8月3日	1,643m ²	道路拡幅 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 六条二坊 六町・十一町、 西堀川小路跡	都城跡	縄文時代		石鏃		平安時代前期の新旧2時期の建物配置を検出した。 また、西堀川小路の東築地・東側溝・東道路・西堀川などを検出した。		
		弥生時代 ～古墳時代	土坑、落込み	土師器、須恵器				
		平安時代	流路、西堀川、側溝、溝、土坑、土取り跡、井戸、柱穴、築地、建物	土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦、軒瓦、木製品、銭貨				
		室町時代	耕作溝	土師器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、銭貨				
		江戸時代	耕作溝、柵	土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-3
平安京右京六条二坊六・十一町跡

発行日 2007年8月20日
編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>
印刷 三星商事印刷株式会社
住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒604-0093 075-256-0961